

平成24年度学力向上推進支援事業「学習習慣、生活習慣育成事業」

実践事例集

— 今、目指したい授業 —



Photo : by Temple tree

会津教育事務所

はじめに

今年度、会津教育事務所では県教育委員会の重点施策を受け、会津域内の実態も考慮して、次の5項目を重点事項とし、域内各市町村教育委員会と協力して、各学校を支援してきました。

- 1 子どもたちの豊かなこころの育成
 - 道徳の時間における多様な指導法の工夫
 - 不登校ゼロに向けた組織的な取り組みの推進
- 2 子どもたちの「確かな学力」の育成
 - 習熟度別指導やT T等、少人数のよさを生かした指導の充実
 - 思考力・判断力・表現力等を育成する言語活動の充実
- 3 子どもたちの健やかな体の育成
 - 「体力づくり推進計画」に基づく授業や体育的活動の充実
 - 「食育推進計画」の整備改善と組織的な食育活動の推進
 - 組織的機能を活用した健康教育の推進
- 4 「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進
 - 地域における支援体制の整備・充実と理解啓発の促進
- 5 安全・安心な学習環境の整備
 - 学校安全体制の整備
 - 感染症対策の推進

域内では上記2の「確かな学力」が最大の課題となっています。これまでにも、域内公立小中学校の児童生徒の学力向上に活用していただくため、平成20年度から平成22年度に『授業づくりのポイント集』(V o 1. 1～3)を発行しました。また、平成23年度には『授業改善のポイント』を発行し、各学校全教員に配付するとともに、会津教育事務所ホームページ「学力向上支援コーナー(教科の部屋)」に掲載しました。

今年度は、域内の優れた実践事例を『実践事例集—今、目指したい授業—』と題してまとめました。掲載されている14例は、「思考力・判断力・表現力等の育成」と「習得と活用」を目指した実践例であり、授業者が各学校各学級の実態を踏まえて、アレンジして日々の授業に活用していただくことのできるものとなっています。ぜひ、先生方がこの事例集を活用することで授業力に磨きをかけ、児童生徒一人一人の学力向上を図っていただきたいと思えます。

なお、本事例集は、昨年度作成しました資料と同様、ホームページ上に掲載しますので、必要な箇所をダウンロードするなどしてご活用くだされば幸いです。

おわりに、本事例集作成に当たって、実践事例を提供くださいました実践校の校長先生はじめ先生方に、心から感謝申し上げます。

も く じ

【国 語】

- KJ法を用いた話し合いを取り入れた実践事例 ----- 1
(小学校6年「やまなし」)
- 根拠を明らかにした批評文を言語活動として位置付けた実践事例 ----- 3
(中学校3年「豊かな言葉『俳句の可能性・俳句十六句』」)
- 今、国語科で目指したい授業 ----- 5
ー特に大切にしたい3つのことー

【算数・数学】

- 的確な単元の構想をもとに、児童の言葉と数学的な考え方のつながりを ----- 6
追究した実践事例 (小学校6年「比例・反比例」)
- 体験的な活動を取り入れ、生徒の解決意欲を高めた実践事例 ----- 9
(中学校3年「相似な図形」)
- 今、算数・数学科で目指したい授業 ----- 12
ー特に、この3点に留意してー

【理 科】

- 単元のねらいを押さえ、児童の実態をもとに単元構成を行った実践事例 ----- 13
(小学校4年「物のあたたり方」)
- 本時のねらいの明確化により、最後まで課題追究できた実践事例 ----- 16
(中学校1年「物質の姿と状態変化」)
- 今、理科で目指したい授業 ----- 19

【音 楽】

- 共通事項を明確にした音楽づくりの実践事例 ----- 20
(小学校2年「おまつりの音楽をつくろう」)
- 思考、判断する場面が設定されている実践事例 ----- 23
(中学校3年「日本の歌に親しもう『椰子の実』」)
- 今、音楽科で目指したい授業 ----- 26
ー大切にしたい3つのことー

【体育・保健体育】

- 教え合い、学び合いを通じて楽しく学ぶ跳び箱運動の実践事例 ----- 28
(小学校3年「跳び箱運動」)
- 楽しく学べる長距離走の実践事例 ----- 31
(中学校1年男女「長距離走」 中学校3年「長距離走」)
- 今、体育・保健体育科で目指したい授業 ----- 37
ー運動の真の楽しさを体感させるために実践したい3つのことー

【英 語】

- ジグソー学習を通して言語活動の充実を図った実践事例 ----- 38
(中学校3年「Lesson5 Houses and Lives」)
- 今、外国語で目指したい授業 ----- 43

【特別支援】

- ソーシャルスキルトレーニング(SST)を取り入れた実践事例 ----- 44
(特別支援学級 学級活動「あいさつのしかた」)
- 今、特別支援教育で目指したい授業 ----- 46
ー特に大切にしたい3つのポイント！ー

【防災教育】

- 大規模地震及び二次災害を想定した避難訓練と全校集会による安全教育の実践事例 -- 47
(中学校 学校行事及び学級活動)

【参 考】

- 指導案の書き方 ----- 52

KJ法を用いた話し合いを取り入れた実践事例

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 作品の世界を深く味わおう 「やまなし」

2 単元の見どころ

- 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとする。(関心・意欲・態度)
- 二つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえることができる。(読むこと)
- 複数の本や文章を比べて読んで、作者のものの見方や考え方について考えることができる。(読むこと)
- 造語の楽しさ、効果的な比喻表現や擬声語・擬態語、美しいリズムなど、語感や言葉の使い方に気づき、関心をもとうとする。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導計画 (総時数9時間 本時7/9)

次	時	学 習 活 動	関心意欲態度	読むこと	言語	評価規準	評価方法
一次	1	「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を交流する。 並行読書	○			作者の生き方や考え方を知り、感想を交流しようとしている。	付箋紙 発言
二次	2	「やまなし」の題名と最初と最後の一文から想像したことを発表し、全文を音読する。 初発の感想を書いて交流する。			○	自分なりに受ける印象を考え、初発の感想を書いている。	ノート
	3	情景描写やかにかの会話から「五月」の世界を読み取り、想像画にまとめる。		○		情景描写やかにかの会話から、想像画をかいている。	ワークシート 学習カード
	4	情景描写やかにかの会話から、「五月」の場面でのかにかの兄弟の心情を想像し、「五月」の場面を一文で表す。		○		かにかの兄弟の心情を読み取り「五月は～な世界」と一文で表している。	ワークシート 学習カード
	5	情景描写やかにかの会話から「十二月」の世界を想像し、想像画にまとめる。		○		情景描写やかにかの会話から、想像画をかいている。	ワークシート 学習カード
	6	情景描写やかにかの会話から「十二月」の場面でのかにかの兄弟の心情を想像し、「十二月」の場面を一文で表す。 「五月」と「十二月」を比較する。		○		かにかの兄弟の心情を読み取り「十二月は～な世界」と一文で表している。	ワークシート 学習カード
	7 本時	「五月」と「十二月」を比べながら読み、題名がなぜやまなしになったのかを考え、意見を交流する。		○		「やまなし」が題名になった理由を考えている。	付箋紙 ノート 学習カード
	三次	8	並行読書してきた内容を生かして紹介ガイドブックを作る。		○		並行読書してきた内容を紹介ガイドブックに表現している。
9		紹介ガイドブック発表会を行い、多くの賢治作品にふれる。	○			多くの賢治作品の楽しさにふれようとしている。	ノート

第三次で行う言語活動のために、並行読書を位置付けています。

第二次で身に付けた力を活用する、単元を貫く具体的な言語活動を位置付けています。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ◎ 作者が題名を「やまなし」とした理由について、本文の叙述や宮沢賢治の生き方、考え方からとらえることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 ○主な発問・児童の予想される反応	時間	○指導上の留意点 ※評価	教師の支援
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてをつかむ。 ④ なぜ宮沢賢治は「やまなし」という題名をつけたのだろう。	5	○「五月」「十二月」の場面を掲示物を活用して振り返る。	
見通す	3 めあてに対する自分の考えをもつ。(一人学び) ○ これまでの学習を思い出し、付箋紙に自分の考えを書いてみよう。 ・ 「やまなし」は、かにたちを喜ばせ幸せな気持ちにしたから。 ・ 自然の温かさや優しさを感じられるから。 ・ 賢治は自然が好きだから。 ・ 賢治が農学校の先生だったから。 ・ 災害などを体験している賢治は、「かわせみ」の恐怖より、「やまなし」の温かい幸せな感じを伝えたかったから。 単元を通してKJ法による話し合いを取り入れています。	10	「イーハトーブの夢」や並行読書から宮沢賢治の生い立ちや考え方をあらかじめ学習しておくことで、「やまなし」が題名になった理由について多面的に考えることができるようにする。(手立て1) ※ これまでの学習から根拠を見つけ出し、自分の考えを書くことができたか。(観察・付箋紙)	なかなか書けない児童には、これまでの学習を個別支援により想起させる。
深める	4 KJ法を用いての話し合いをする。(学び合い) 班としての考えを集約するための話し合いです。 ○ 付箋紙を自分の考えを述べながら貼り、グルーピングして班としての意見をまとめよう。 グルーピングによって、多様な考えが整理され、視覚的にもわかりやすくなります。 ・ 「かわせみ」は恐怖、「やまなし」は平和や優しさを表している。災害や凶作などを体験した賢治の平和に生活したいという願いが「やまなし」には込められているから。	15	話し合いにKJ法を取り入れ、発表が苦手な児童に配慮すると同時に、多様な考えを視覚的に分かりやすくまとめ、班の考えをはっきり提示することができるようにする。(手立て2) ※ 自分の考えを進んで発表したり、友だちの考えを聞いたりして班の考えをまとめることができたか。(観察・KJ法シート)	班の話し合いをスムーズに活発に進めることができるように、学習リーダーに本時の話し合いの進め方をあらかじめ伝えておく。
まとめる	5 各班の意見をまとめ、全体の考えとする。(振り返り) (1) 各班の考えを集約することで、キーワードを考えまとめを書く。 ⑤ 賢治は災害を経験していたので、平和や希望を求めてた。だから、平和と希望の「やまなし」を題名にしたのではないか。 最終的な自分の考えを明らかにすることで本時のまとめとしています。 (2) 学習カードを記入する。	15	振り返りで全体でキーワードを考え、教師が線を引く。 各班から出た考えのキーワードを用いて、自分で本時のまとめを書く。(手立て3) ※ キーワードを用いて、本時のまとめを書くことかできたか。(観察・ノート) ○ 今日の学習内容の分かりやすかった点や疑問、また友だちの良かった発表などを記入させる。	

国語の授業で特に大切にしたい3つのこと「言語活動を充実させる」「自分の考えを持たせる」「『話し合い』と『伝え合い』を区別する」が、この実践例では見事に位置付けられています。

根拠を明らかにした批評文を言語活動として位置付けた実践事例

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 豊かな言葉 「俳句の可能性・俳句十六句」

2 単元の目標

- 俳句を読む楽しさを知り、想像を働かせながら読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)
- 俳句を読み、季語や切れ字に注意しながら、具体的な言葉や表現に即して情景や心情を想像することができる。 (読む)
- 表現の仕方を工夫して俳句の批評文を書くことができる。また、俳句の約束事を守って俳句を創作することができる。 (書く)
- 語句の使い方に注意して文章を読んだり書いたりすることができる。 (言語)

「書くこと」と「読むこと」の2つの領域を目標とする複合単元として位置付けています。

3 評価規準

学習内容	評価規準			
	国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○俳句の形式や約束事について知り、俳句表現の持つ味わいと可能性について考え、創作する。	・俳句を読み、自分の心をとらえた言葉や表現を書き抜こうとしている。	・俳句を鑑賞し、自分の見方や感じ方をふまえ、批評文を書いている。 ・表現方法を工夫して俳句を創作している。	・俳句の季語と季節を読み取り、作者の思いや俳句ができる時の場面を想像して読んでいる。	・1つ1つの言葉の意味を的確に捉え俳句の季語や表現方法について理解している。

観点別学習状況の評価を効果的に行うために、評価規準を設定しています。

4 指導計画 (総時数6時間)

- (1) 「俳句の可能性」を読んで、俳句についての興味・関心を高め、俳句の基本的な約束事を知る。 ----- (1時)
- (2) 解説文中の五句の情景と心情を理解し、音読して味わう。 ----- (1時)
- (3) 「俳句十六句」を音読し、作品のリズムを読み味わう。 ----- (1時)
- (4) 各句の大意を理解し、情景をとらえ、表現の優れた点を鑑賞する。 ----- (1時)
- (5) 俳句の批評文を書く。 ----- (1時・本時)

単元の終盤に具体的な言語活動を位置付け、第4時まで身に付けた力を活用できるようにしています。

また、既習である批評文の単元の学習内容も活用できるようにしています。

- (6) 「俳句を創作しよう」を読み、自分で俳句を創作する。 ----- (1時)

5 本時のねらい

- 「俳句大賞」を選考し、批評文(選評)を書く作業を通して、作品を分析する力と批評する力を身に付けさせる。

6 指導過程

階	学習活動・内容	時間(分)	形態	○支援 ◎主題との関わり ※手だて	達成基準
課題把握	1 「俳句十六句」を大きい声で音読する。	5	一斉	○ 前時までの学習を振り返り、思いや情景を思い浮かべながら音読させる。	B：本時の目標が理解できたか
	2 本時の目標と課題を把握する。 「俳句大賞」を選考しよう。	3	一斉	○ これまでの学習を振り返り、身に付けた力を生かして、身近にある俳句作品から俳句大賞を選考する学習を行うことを知らせる。	
課題解決	3 選考の仕方と選考結果の報告の形について知る。 (1) 選考の仕方 A：夕立や大きな虹のプレゼント B：夕立や優しい人が怒るとき すぐれた句を選び、根拠を明らかにした批評文を書くことを言語活動として位置付けています。	10	一斉	○ 次のような形で進めることを確認する。 ① 2つの作品の分析を行う。 ・季語と季節 ・語彙(大意) ・主題 ・表現技法 ・表現の特徴(優れた点) ・不十分な箇所 ② 大賞の決定 ・選考の理由を明らかにしながらグループで話し合い、決定する。 ③ 選考結果を批評文(選評)の形にまとめる。 ・グループで批評文(選評)の形式を整えながら作文する。 ④ 模造紙に批評文(選評)を書く。 ○ 作品の分析をもとに、根拠をふまえて、「好き、嫌い」ではない評価をするようにさせる。 ○ 「批評の言葉をためる」の文章の中で重要な意味をもう一度振り返らせる。 ・「単なる好き嫌いの『批判』ではなく、・・・」 ・「『批評』とは自分なりの価値基準の根拠を明確にして・・・」 ○ 芥川賞の選考結果の例文を読んで聴かせる。	B：選考の仕方と批評文(選評)の書き方が理解できたか。
	4 グループに分かれて作品の分析と大賞の選考を行う。	15	グループ	○ あらかじめ決めておいたリーダーを中心に話し合わせる。 ※ A生徒への手だて 作品の分析を丁寧に行い、話し合いをリードするよう助言する。 ※ B生徒への手だて 自分の考えや感じ方を自信を持って発言するよう助言する。 ※ C生徒への手だて 分析の一つ一つのポイントについて考えを持たせるよう助言する。	B：進んで考え、発言しようとしているか。
	5 選考結果を批評文(選評)の形に仕上げる。	10	グループ	○ 下書きに書いたものを推敲し、模造紙に大きく清書させる。 ○ グループの代表はこれを読み上げる。	置付けています。具体的な支援計画を位
	6 お互いのグループの批評文(選評)を読んでの感想を書き、授業を振り返る。 合意形成ではなく、伝え合いによる深化・拡充をねらいとしています。	3	一斉個人	○ お互いのグループの批評文(選評)を読んで、感想を述べ合い、自分たちとは違う感じ方や考え方がいることに気付かせる。 ○ 教師が補足し、批評文(選評)の評価をしながら学習活動のねらいについて話をする。	B：級友の発表に感想を持つことができたか。
まとめ	7 学習のまとめと振り返りをする。 8 次時の予告を聞く。	3 1	個人 一斉	○ 自己評価表に記入し学習の振り返りをする。 ○ 次時は本時の学習を生かし、今度は自分が俳句を創作することを知らせる。	

今、国語科で目指したい授業

—特に大切にしたい3つのこと—

1 言語活動の充実



- 1単位時間におけるばらばらな言語活動を位置付けることではありません。「単元を貫く」「柱となる」「具体的な」言語活動を単元に位置付けることが大切です。
- 教材を通して身に付けた力と、言語活動で活用する力との関わりを、常に意識しながら授業を行う必要があります。

2 自分の考えを持たせる



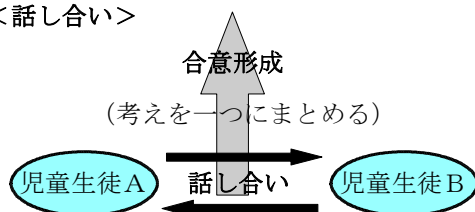
- どの領域の学習でも、児童生徒一人一人が自分の考えを持つことが授業の出発点となります。特に「読むこと」の学習では、内容を正確に読み取った上で自分の考えを明らかにすることが求められています。これはPISA型読解力の「熟考・論述」にあたります。
- ノートは自分の考えの足跡です。始めの考えと話し合いを通じた最終的な考えを書かせることが必要です。そして、この2つを比較することで「自己の学びの高まり」を実感させることができます。学年の発達段階に応じて取り入れてください。また、児童生徒が書いた自分の考えを、単元の評価規準をもとに正しく評価していくことになります。

3 「話し合い」と「伝え合い」を区別する

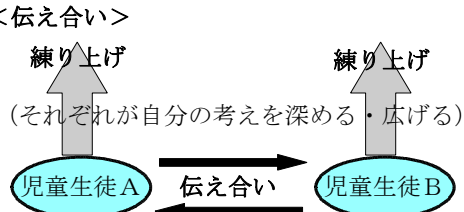


- 「話し合い」は集団としての考えを一つにまとめあげるためのものです。一方「伝え合い」は一人一人の考えを深めたり高めたり広げたりするためのものです。学習の目的に応じ、区別して使い分けることが大切です。
- 下の図のようなイメージになります。

<話し合い>



<伝え合い>



(『平成23年度福島県中学校教育研究会 国語部研究の進め方』より)

的確な単元の指導構想をもとに、児童の言葉と数学的な考え方のつながりを追究した実践事例

第6学年 算数科学習指導案

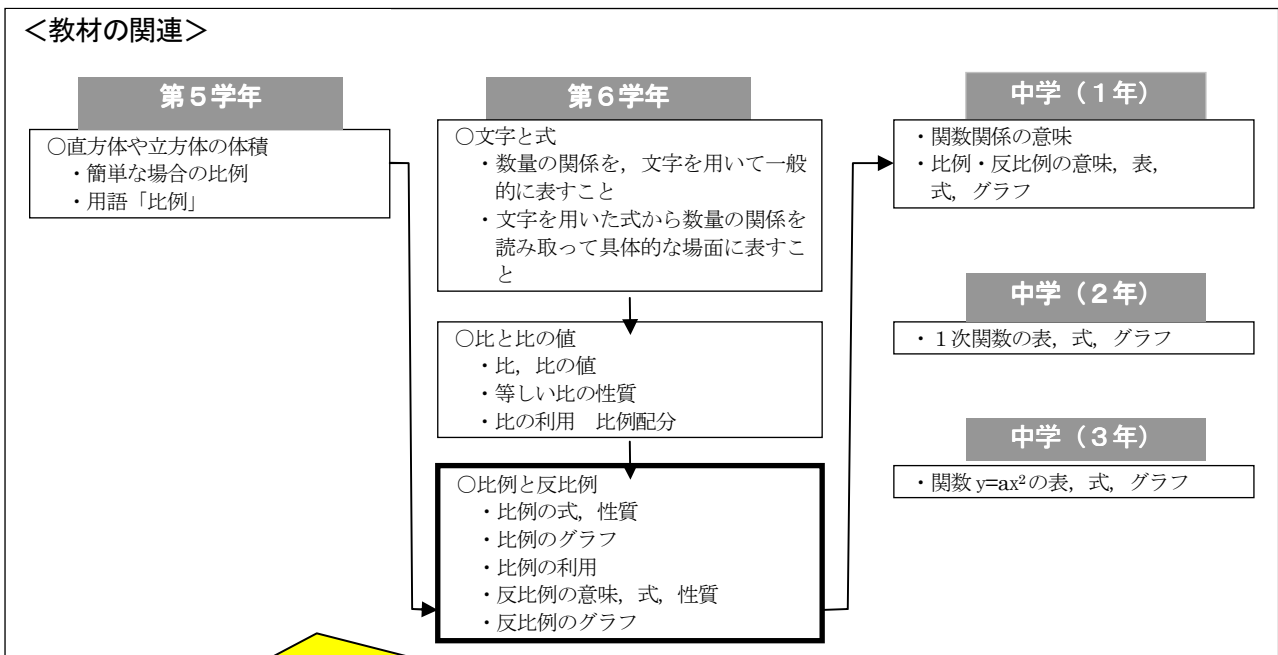
1 単元名 比例と反比例（比例をくわしく調べよう）

2 単元の目標

- 比例の関係に着目するよさに気づき、比例の関係を生活や学習に活用しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 比例の関係を表や式、グラフに表し、特徴を一般化してとらえ、身の回りから、比例の関係にある2つの数量を見出して問題の解決に活用することができる。
(数学的な考え方)
- 比例や反比例の関係にある2つの数量の関係を式、表やグラフに表すことができる。
(数量や図形についての技能)
- 比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解することができる。
(知識・理解)

3 これまでの学びと単元について

(文章省略)



前後3学年分の教材の関連が明記されています。それにより、本単元の内容の系統性が一目で分かるようになっています。

4 指導と評価計画 (総時数19時間 本時11 / 19)

	学習内容	子どもの問いや願い	評価計画			
			関	考	技	知
比例	<ul style="list-style-type: none"> ・ y が x に比例する関係 (1・2/19) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「増え増え」「増え減る」「減る減る」「減る増え」だ。伴って変わるっておもしろいな ・「比例」は「増え増え」の中でも特別な関係なんだ 	○		○	
			評価計画 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる2つの量の関係を表や式に表そうとしている。 ・伴って変わる2つの量の関係の中でも特別な比例の関係を表や式に表すことができる。 			

	<ul style="list-style-type: none"> 比例の性質 (3/19) 	<ul style="list-style-type: none"> x が 0.5 倍や 2.5 倍 (小数倍) のときは, y はどうなるのかな? 分数倍のときは? 「比例図」でやってきたから... 				○	<ul style="list-style-type: none"> y が x に比例するとき, x が小数倍, 分数倍になると, それに伴って y も小数倍, 分数倍になることを理解している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 比例のグラフ (4・5・6/19) 	<ul style="list-style-type: none"> x が 0 のとき y は? x の値が決まると y の値は.. 直線になってかっこいい 傾きの違いから差が分かるぞ 				○	<ul style="list-style-type: none"> 比例のグラフは, 原点を通る直線になることを理解している。 比例の関係をグラフに表したり, グラフから情報を読み取ったりすることができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 比例の性質の活用問題の解決 (7・8/19) 	<ul style="list-style-type: none"> 全部数えるのは大変。数えないでできないかな? 比例の関係になっているぞ使えるかな 			○		<ul style="list-style-type: none"> 比例関係にある 2 つの量を見つけて, 比例の性質を生かして問題を考えている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 比例の適用問題の解決 (9・10/19) 	<ul style="list-style-type: none"> 表や式, グラフを使って調べてみよう 比例の性質を使って問題をたくさん解いてみたいな 				○	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる 2 つの量を見つけ, 表や式, グラフを用いて関係を調べ, 比例の関係を見つけることができる。 学習内容を適用して, 問題を解決することができる。 	
反比例	<ul style="list-style-type: none"> 反比例の意味 (11/19) 本時 	<ul style="list-style-type: none"> どんな関係になっているのかな? 比例と比べると... 				○	<ul style="list-style-type: none"> 比例と対比しながら, 2 つの量の変わり方を調べようとしている。 反比例の意味を理解している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> (12~16/19) 反比例の式 	<ul style="list-style-type: none"> 反比例の式はいつでも $x \times y =$ 決まった数 $y =$ (決まった数) $\div x$ なる! 「増え減る」の関係だ。反比例かな? それとも...? 				○	<ul style="list-style-type: none"> 2 つの量の変わり方を, 表や式, グラフを使って調べることができる。 反比例の関係を表す式の特徴を理解している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 反比例の性質 	<ul style="list-style-type: none"> x が分数倍や小数倍のとき y はどうか変わるかな? 整数倍のときはその逆数倍だったから... 					○	<ul style="list-style-type: none"> 反比例するとき, x の値が $1/2$ 倍, $1/3$ 倍, ... になると, それに伴って y の値は, 2 倍, 3 倍, ... になることを理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> 反比例のグラフ 	<ul style="list-style-type: none"> 反比例の関係を表すグラフは, 全部右下がり? 0 と 1 の間は? 「0 の点」に近づいていくけど... 					○	<ul style="list-style-type: none"> 反比例のグラフの特徴を理解している。 反比例の関係をグラフに表したり, グラフから読みとったりすることができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の習熟 (17・18/19) 	<ul style="list-style-type: none"> 比例, 反比例の関係をを使った問題を解いたり作ったりできるようにになりたいな 伴って変わる 2 つの量の関係は, 表や式, グラフを使って表すことができるぞ 				○	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して, 問題を解決することができる。 基本的な学習内容を身につけている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着確認 (19/19) 					○		

「教えること」「考えさせること」「習熟させること」などをバランスよく配列して、単元の指導計画が作成されています。

5 本時の目標

- 比例と対比しながら, 2 つの量の変わり方を調べようとしている。(関心・意欲・態度)
- 比例と対比しながら, 反比例の意味を理解することができる。(知識・理解)

1 単位時間の中に、「考えさせること」「話し合わせること」「教えること」などがバランスよく配列され、授業が展開されています。

子どもの言葉を大切にした授業づくりをするため、日常的な言葉で表現された児童の考えを、指導案の中に表記しています。そうすることで、児童の思考の流れを予想したり、教師の支援を考えたりすることが行いやすくなっています。

6 学習過程

学習内容・活動	時間	○手立て及び留意点 ●評価
1 問題場面を読み取り、本時のめあてをつかむ。 C:横と縦の長さが変化している C:あれ、比例じゃないよね？ ②どんな変わり方をするのかな？	7	○ 提示された図形を見て気付いたことを自由に発言させながら、伴って変わる2量に気付かせ、どんな関係があるか調べる意欲をもたせる。 ○ 比例の関係を調べる際、表やグラフなどを使ってきたことを想起させ本時も自分で選んで調べさせる。 ○ 自力解決が遅れがちな子どもには、提示された図や比例の関係を調べたときの自分のノートを手がかりに、表を作成させる。
2 面積が一定の場合の縦の長さとの横の長さの関係を調べる。 C:「増え減る」だ。 C:表にしてみよう。 C:どんなグラフになるかな。 C:式は、縦×横＝面積だから…	8	○ 調べ終わった子どもには、近くの友達と見つけた決まりを紹介し合わせ、共感し合ったり、他の考えに気付かせたりする。 ● 比例と対比しながら、2つの量の変わり方を調べようとするのができたか。 ○ 比例の関係を比べながら、それぞれ見つけたきまりや特徴を話し合わせる。 ○ まず、表を取り上げ「変化のきまり」や「対応のきまり」について確認する。次に、グラフや式と関連させながら、その特徴を確認し合い、比例の関係ではないことを根拠を明らかにして話させる。 ○ 意図的指名をして友達の見つけたきまりを代わりに説明させたり、子どものつぶやきを取りあげたりすることで、一人ひとりの考えや思いを共有しながら、反比例の特徴について考えることができるようにする。 ○ 表の続きやグラフの整数値の間の値、原点「0の点」について、公式や問題場面と関連付けながら話し合わせ、小数や分数になってもよいこと、原点は通らないことを理解させ、値を導き出していけるようにする。
3 比例と比べながら、2量の関係について話し合う。 C:縦が2倍、3倍、…になると、比例とちがって、その逆数倍になっていたよ。 C:「 $y = \text{決まった数} \times x$ 」にはならなかったけど、横×縦＝12になったよ。 C:だから→ $x \times y = 12$ になる。 C: $x(\text{横}) = 5$ のときはどうやったの？ C:式に当てはめて考えると小数で表せるよ。 C:比例と違って一直線じゃない。右下がりになっている。 C: 0の点は？ C: 通らないよ。だって、横が無いと面積ができないもの。 $0 \times y \neq 12$ だから、 $x=0$ 、 $y=0$ のときはありえない	20	○ 用語「反比例」及びその意味について指導し、反比例の定義及び用語を板書する。 ○ 本時をふり返り、比例との違いを明確にさせながら分かったことと感想を自分の言葉でまとめさせる。 ● 比例と対比しながら、反比例の意味を理解することができたか。
4 用語「反比例」の意味を知る。 5 本時をふり返りまとめを書く。 キーワード:「 y は x に反比例する」「比例」	5 5	

① めあて（横と縦の長さの変わり方を考える）
 ② 学習活動（2量の変わり方を、調べる→話し合う）
 ③ まとめ（反比例の定義）
 の整合性が図られた展開がなされています。

体験的な活動を取り入れ、生徒の解決意欲を高めた実践事例

第3学年 数学科学習指導案

1 単元名 「相似な図形」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観 (省略)

小学校との関連を踏まえて、本単元の内容の系統性が記述されています。

(2) 教材観

小学校第6学年では、縮図や拡大図について学習している。第1学年では、図形の作図や移動を取り扱っている。さらに、扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体、錐体及び球の表面積と体積が求められるようにしている。第2学年では、三角形の合同条件を用いて三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることを学習している。第3学年では、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的に推論することの必要性和意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現する能力を伸ばすことをねらっている。また、基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにするのに適した内容である。

(3) 指導観

本時の学習では、相似な図形の性質を活用する内容として、校舎の高さを求めさせたい。この学習は、小学校第6学年時に縮図や拡大図の学習においても取り扱っている。したがって、例題については既習事項の確認として扱い、説明させながら進めたい。そして、相似を学習したことによって相似比を使って求めさせたい。また、実際に校舎を測るためにはどの部分の長さや角度が必要かを考えさせ、実生活の中で相似を利用して考えられる場面を見だし、生徒が実際に体験をとおして課題を解決していくようにしたい。

小学校との関連を踏まえて、本単元での中学校としての指導をどのようにするかが記述されています。

3 指導計画 (総時数20時間)

(1) 相似な図形 …… 8時間

① 相似な図形 …… 4時間

② 三角形相似条件 …… 2時間

③ 相似の利用、基本の問題 …… 2時間 (本時1/2)

(2) 平行線と比 …… 6時間

(3) 相似な図形の面積と体積 …… 4時間

(4) 章の問題、単元テスト …… 2時間

4 本時の目標

◎ 直接測ることが困難な校舎の高さを、相似の考えを利用することで求めることができることに気づき、相似の考えを積極的に活用しようとする。(数学への関心・意欲・態度)

○ 高度などを正確に測り、できるだけ小さな誤差で実際の校舎の高さを求めることができる。(数学的な技能)

5 学習指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点	評価
課題把握	<p>1 既習事項の問題を解く。</p> <p>校舎から16mはなれた地点Pから校舎の先端Aを見上げたら、水平の方向に対して40° 上に見えました。目の高さを1.5mとして、校舎の高さを求めなさい。</p> <p>(1) 縮図をかいて求める。</p> <p>教科書にある例題を、 ①小学校での既習事項の確認 ②本単元の既習事項の確認の目的で利用しています。</p> <p>2 本時の課題を把握する。</p>	18	一斉	<p>○ どのようにすれば求められるか発表させる。</p> <p>○ 縮尺については$1/200$とする。</p> <p>○ 机間巡視をしながら分度器を使って丁寧に指示する。</p> <p>○ 縮図でかいた直角三角形が相似になっていることを三角形の相似条件にあてはめて答えさせる。</p> <p>○ 求める部分の長さを x m とし、比例式を解くことで求めることができることを確認する。</p> <p>○ 目の高さを加えることを確認する。</p>	
<p>相似の考えを利用して、中学校の校舎の高さを求めよう。</p>					
課題解決・追究	<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 解決するための見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 縮図をかいて求める。 ○ 解決するのに必要なもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎からの距離 ・ 校舎を見上げた時の角度 ・ 目の高さ <p>(2) 解決するのに必要なものを中庭で実測する。</p> <p>校舎からの距離、校舎を見上げた時の角度、目の高さなどを実測させる体験的な活動を取り入れています。</p> <p>(3) 課題を解決する。</p> <p>生徒は、相似の考えを利用して計算で求められることに対して、実感をともなって理解していました。</p>	25	ペア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎からの距離はメジャーを使わせる。 ○ 校舎を見上げた時の角度を測るために、高度測定器をペアで使わせる。このような器具を用いることで、実際の高さが求められることを三角定規を使って考えさせる。 ○ 目の高さを測定させるために、出入口に130～170cmの目もりを掲示する。 <p>直接測ることが困難な校舎の高さを、相似の考えを利用することで求めることができることに気づき、相似の考えを積極的に活用しようとする。(観察)</p> <p>高度などを正確に測り、できるだけ小さな誤差で実際の校舎の高さを求めることができる。(発表・プリント)</p>	

	<p>(4) モニターを見て校舎の高さを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎の高さは12 m 60 cm 		<ul style="list-style-type: none"> 早くできたら、周りの生徒と答えあわせをさせる。 教師が屋上で実測した様子を録画したものをモニターで見せ、確認させる。 多少の誤差が生じることを伝え、答えに一番近かった生徒を称賛する。 	
まとめ	<p>4 本時のまとめをし、学習を振り返る。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>直接測定するのが難しい長さは、縮図をかき、相似の考えを利用して計算で求めることができる。</p> </div> <p>(2) 本時の学習を振り返り、自己評価する。</p>	7	一斉	<ul style="list-style-type: none"> どの部分を測定すればよいのかを確認させる。また、相似な三角形を直角二等辺三角形にすれば、求めやすいことに気づかせたい。 本時の授業でできたことや分かったことなどを自己評価させ、本時を振り返らせる。

自力解決した方法をもとに、学級全体での比較検討の場を設定し、数学的な見方や考え方のよさを味わわせました。

具体的には、次のような流れで、直角二等辺三角形をつくと簡単に答えが求まることを確認しました。

(T：教師、C：生徒)

(正解の高さが12m60cmであることを確認した後)

T：できるだけ簡単に計算できる方法はないかな？ 角度を何度にすると計算が楽にできるかな？

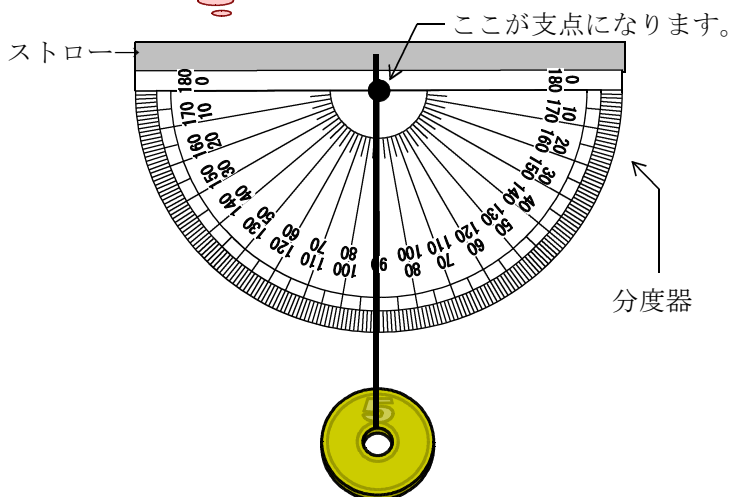
C：45°

C：直角二等辺三角形

T：そうだね。角度が45°になるまでずれて校舎との距離を測ればよかったんだね。45°だと、計算しないで測った校舎までの距離に目の高さを足して求めれば、簡単だったね。

C：そうか！

高度測定器の概略



- 手作りの教具です。ストロー、糸はテープで分度器に貼り付けます。
- ストローの穴から校舎の先端を見て、見上げる角度を測定する。

今、算数・数学科で目指したい授業 —特に、この3点に留意して—

ポイント1 単元指導構想を作成して指導の見通しをもつ

- ◎ 「教えること」「考えさせること」「活動させること」「習熟させること」などをバランスよく配列することが大切です。
- ◎ 特に、算数的(数学的)活動を通して指導することは勿論のこと、言語活動の充実を図る授業を単元のどこに組み込むのかを明確にして指導することが必要です。

ポイント2 「めあて(課題)ー学習内容ーまとめ」の整合性を図る

- ◎ 単元指導構想(上記ポイント1)を受けて、本時では学習のめあて(課題)、それを追究(解決)する活動、そしてその着地点(まとめ)が一本筋の通った流れになっていることが大切です。
- ◎ 本時の授業を構想する際に、もう一度これら3つが一つの流れになっているかを確認してほしいと思います。

ポイント3 自分の考えをもたせ、比較検討の場を設定する

- ◎ 比較検討をする理由 → 数学的な見方や考え方のよさを味わわせるため
- ◎ 比較検討の視点

- ① 整合性の視点
- ② 簡潔性の視点
- ③ 明瞭性の視点
- ④ 一般性の視点

- ◎ 言語活動の充実を図るために、自分の考えを発表させる授業を多く見かけます。それも大切ですが、そのうえで比較検討の場を設定し、数学的な見方や考え方のよさを感じさせたいところです。そこに算数・数学科の教科の本質があると考えます。
- ◎ 多様な考えを比較検討するためには、自分の考えを説明したり、話し合ったりすることが必要になります。すなわち、比較検討する場を設定することで、いっそう言語活動の充実が図れるようになります。

単元のねらいを押さえ、児童の実態をもとに単元構成を行った実践事例

第4学年 理科学習指導案

- 1 単元名 物のあたたまり方
- 2 単元の目標

【学習指導要領解説より（一部省略）】

金属、水及び空気を温めたり冷やしたりして、それらの変化の様子を調べ、金属、水及び空気の性質についての考えを持つことができるようにする。

金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積は変わる。

金属は熱せられた部分から順に暖まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。本単元は「粒子」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「粒子の持つエネルギー」にかわるものである。

温度の変化と金属、水及び空気の温まり方や体積の変化とを関係付ける能力を育てるとともに、それらについての理解を深め、金属、水及び空気の性質についての見方や考えを深めることができるようにする

3 単元の構成

(1) 子どもの実態について

水や空気については、お風呂や暖房器具の使用などで、金属については、給食の食缶や家庭の調理器具等を使用する中で、「あたたまる」ということを知っている。しかし、物質によってあたたまり方が異なることについては意識していない。アンケートによると、金属も水も空気もあたためた部分からあたたまると答えた児童がほとんどで、水については、2名のみが上の方からあたたまると答えたが理由を話すことはできなかった。

「物の体積と温度」「水のすがたとゆくえ」では、目に見えない物の体積の変化をとらえることについて学習を行い、粒子図を活用して表現することができるようになってきている。読解力に関する実態については、次のとおりである。

- キーワードを与えることで、前時の課題との共通点や違いを見つけ出すことができるようになってきている。
- 予想をする前に、既習事項を全体で確認することで、一人一人が実験の見通しをもつことができるようになってきている。
- 「二人学び」では、実験結果の考察についての自分の考えを交流することができるようになってきた。「二人学び」や「みんなの学び」を通して、自分の考えを表現できるようになってきている。
- 学習のまとめを自分の言葉で書くことができるようになってきている。考えの再構成のために、吹き出しを使って振り返りをしているところである。

(2) 教材について

金属、水、空気のあたたまり方を比較しながら調べ、金属は熱せられた部分から順にあたたまるが、水や空気は熱せられた部分が移動してあたたまることをとらえることができることがねらいである。そこから、金属、水、空気の性質とあたたまり方とを関係づけ、物には、熱に対する性質の違いがあるという見方や考え方ができる教材である。

生活の中での理解の様子、さらに単元の目標の内容についてアンケートで詳しく実態を捉えている。

学校の研究テーマに関する実態の把握を行っている。

実態よりスタート

単元のねらいと教材の関係が、しっかりと捉えられている。

(3)指導にあたって

上記の児童の実態により、本単元では、物のあたたまり方について、児童は様々な考えをもっているため、話し合いや図での記録などを通して、科学的な見方や考え方を育てていきたい。

本時においては、正方形の銅板のあたたまり方を基に「コの字型」の銅板のあたたまり方について調べることを活用課題とし、金属は熱した部分から順にあたたまることを理解させる。そのために、授業構成においては以下の4点を工夫していきたい。

- 正方形の銅板の温まり方を調べた実験方法を振り返り、めあてにつなげる。
- 正方形の銅板の温まり方を振り返ることで、コの字型の銅板の温まり方について見通しをもつことができる。
- 実験の結果についての自分の考えを発表ボードを活用し、簡潔にまとめることで、友達や全体に分かりやすく伝えることができる。
- 自分の思考過程を吹き出しをもとに振り返ることで、考えに深まりをもたせる。

(1) 子どもの実態
(2) 教材について
を受け、単元の目標に迫るために、実験を通した子ども同士の練り上げが必要と考え、そのための具体的な方策が、研究テーマに沿って具体的に考えられている。

4 指導計画 (総時

数 11時間)

次	時	学習活動	評価規準 (めざす子どもの姿)	評価計画
一	1	・金属のあたたまり方について簡単な実験を行い、金属はどのようにあたたまっていくのかを考え、予想する。	(関) 生活経験をふり返し、話し合いをとおして、金属は熱い物にふれていないところも熱くなることに興味・関心を持ち、金属のあたたまり方について自分の予想をもつ。	・ノート (吹き出し) ・発表 (考えの交流)
	2	・金属のあたたまり方を調べる方法を考え、実験を行う。	(技) 金属を加熱してあたたまる様子を調べる実験方法を考え、実験用具を正しく使い、金属の棒や銅板が熱したところからあたたまることを記録している。	・ノート (吹き出し) ・発表 (考えの交流) ・プリント (自力解決の様子)
	3			
	4	・コの字型の銅板のあたたまり方を調べる実験を行い、金属のあたたまり方についてまとめる。	(思) コの字型の銅板のあたたまり方について、熱した部分とあたたまる順序を関係づけ、金属のあたたまり方のきまりを見つけている。	・ノート (吹き出し) ・発表 (考えの交流) ・プリント (自力解決の様子)

5. 本時の構想

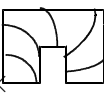

(1) 本時のねらい

○ コの字型の銅板のあたたまり方について、熱した部分とあたたまる順序を関係づけ、あたたまり方のきまりを見つめることができるようにする。

「A」：金属は、熱した部分から順にあたたまっていくことを理解し、説明している。

「C」への手立て：正方形の銅板のあたたまり方の実験結果を撮影した連続写真を提示し、連続的な変化がとらえられるようにする。

(2) 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 (◎読解力)
			評価 (評価方法)
とらえる	1. 本時のめあてをつかむ。 コの字型の銅板はどのようにあたたまるのか?	5	◎ 正方形の銅板の温まり方を振り返り、めあてにつなげる。 [ノート]
考える・確かめる・まとめる	2. 既習事項を振り返り、結果を予想する。 (1) 正方形の銅板の温まり方を振り返る。 (2) 予想を図と言葉でかく。 ①  つながっているところから順にあたたまる (Xを加熱) ②  正方形と同じように (2) 考えを話し合う。 4. 実験をする。 5. 結果から考察する。 (1) 考察する。 (2) 分かったことをまとめる。 コの字型の銅板は、つながっている部分が順にあたたまる。	10 10 15	◎ 正方形の銅板の温まり方を振り返ることで、コ字型の銅板の温まり方について見通しをもつことができる。 [ノート] ○ 最初にあたたまると思う部分を赤、最後にあたたまると思う部分を青でしめすことで、考えを交流する時に、比較しやすくする。 ○ 「二人学び」では、お互いの考えの共通点や違いを見つけさせる。 ○ 「みんなの学び」では、意図的指名により、考えをグループ化し、自分の考えを整理させる。 ○ 加熱用具を正しく安全に使用できるよう配慮する。 ○ ペアで実験し、結果を発表ボードに記入させる。 ◎ 実験の結果についての自分の考えを発表ボードを活用し、簡潔にまとめることで、友達や全体に分かりやすく伝えることができる。 発表・ノート コの字型の銅板のあたたまり方について、熱した部分とあたたまる順序を関係づけ、金属のあたたまり方のきまりを見つけているか。(プリント)
ふりかえる	6. 本時の学習のまとめをする。 ・吹き出しをもとに、自分の考えをふり返り、整理する。	5	◎ 自分の思考過程を吹き出しをもとに振り返ることで、考えに深まりをもたせる。 (読解力 エ) [ノート]

今回の実践を参観して、②の予想が以外に多いことに驚いた。銅と空気の熱の伝わり方が同じであると考えた児童が多くいることが明らかになった。学習指導要領に「金属、水及び空気の性質についての見方や考え方をもつようにすることがねらいである。」と書かれている意味が、善く理解された。自分の経験のみにとらわれず、目標分析をしっかりと行い、それを元に児童の実態調査を積み重ねることにより、より有意義な授業が設計できると考えられる。

本時のねらいを明確にすることによって、最後まで追求できた実践事例

第1学年 理科学習活動案

単元名 2 身のまわりの物質
単元の目標

第4章 物質の姿と状態変化

【学習指導要領解説より(一部省略)】

(ア)状態変化と熱

物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだすこと。

* (ア)については、粒子のモデルと関連付けて扱うこと。その際、粒子の運動にも触れること。

教材の価値

物質の状態変化は身近な自然現象である。しかし、体積や質量の変化などについては、考えたことがないし、どのように考えてよいか分からないことが予想できる。目で見えない体積や質量の予想することは難しいので、モデルを使って状態変化のようすを粒子の運動として考えさせ、状態変化を視覚的にとらえて説明し、生徒同士の話し合い活動を通して、科学的な思考力を育てることができると考える。

教科書では、実験の後にモデル化を行っているが、生徒は水溶液の単元で、水に溶けるようすを粒子のモデルを使って表すことを学習している。そこで、予想の段階でモデルを使うことで、根拠ある予想をさせたいと考えた。お互いの意見を出し合い、実験での検証すること、理科のおもしろさを感じられると考える。

以上のことから、本時の授業は自ら考え、自ら学ぼうとする生徒を育て、豊かな学力を育むために適した教材であると考える。(本時のねらいの明確化)

生徒の実態

男子3名、女子1名の合計4人で、理科に対する興味関心は高く、観察、実験に積極的に取り組むことができる。しかし、抽象的だったり、どう考えてよいかわからないと、思考を諦めて、何となく答えてしまう傾向がある。

目に見えないものを考えていく上で、モデルなどを使ってイメージをさせ、根拠のある予想を立てて考えさせることが必要だと考える。

また、一年生なので、状態変化を経験してはいるものの、体積や質量がどう変化するかを予想することは難しいと考える。そこで、固体のろうが液体のろうに沈む現象を見せ、そのことを説明する粒子のモデルを考え、話し合うことで、考えを深めさせたい。話し合ってお互いの考えを深める授業は、今までも折に触れて行っているが、その中で、話し合っている考えを深めることを楽しいと感じている生徒もいる。今回の授業を通して、更に理科に対する興味関心を持たせ、科学的思考力を育てたいと考える。

ねらいの
明確化

指導観

ねらいに対する
実態

指導の視点

▼ 粒子のモデルを使って状態変化の際の体積や質量を説明し、お互いの考えを深めさせる。

- ・豊かな学力として定着させるために、粒子のモデルを使って説明させる。
- ・本時の実験でわかったことを自分の言葉で書かせることで、本時の学習を振り返らせ、次時への意欲につなげる。

学習計画 総時数 6 時間 (本時 2 / 6)

時	主な学習内容	評価規準			
		関 心 意 欲 態 度	科 学 的 思 考	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
1	状態変化の現象に興味を持ち、粒子のモデルで考える。(電子黒板使用)				習得 (モデルでの表し方を身につける)
2	状態変化の際の体積と質量の変化を予想し、調べる。(実験 7)				活用 (早速モデルの表し方を使って予想)
3	ロウやエタノール以外の物質では、状態変化前後で体積と質量がどうなるかを知る。				習得 (実験結果を考察しまとめる)
4	状態変化と温度の関係を調べる。(実験 8)				

本時の授業の流れ

本時の目標		手だて	
学習課題 ロウが液体から固体に状態変化するとき、体積や質量はどうなるか予想して、実験で確かめることができる。		①液体のロウに固体のロウが沈むことから、液体から固体に状態変化したとき、密度が大きくなることを指摘させ、状態変化のときの体積と質量を予想させる。 ②説明の際、 <u>粒子のモデルを使って視覚的に表現し、相手に分かりやすく説明させ、お互いの考えを深めさせる。</u> ③実験を行い、自分たちの予想を確かめさせる。	
段階	学習内容・活動・課題	時間	指導上の留意 評価点 評価 ※指導の視点との関わり
課題把握	1 事象を提示し、課題の設定する。 (1) 固体のロウが液体のロウに沈むようすを見る。 (2) 状態変化の前後で、密度が大きくなっていることに気づく。 (3) 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ロウが液体から固体に状態変化するとき、体積や質量はどう変化するのだろうか。 </div>	5	○ 固体のロウが沈むようすを見せ、状態変化と密度の関係に興味を持たせる。 ○ ロウの固体の密度が液体より大きいことに気づかせる。 ○ 密度は体積と質量で計算することを想起させ、生徒に課題を設定させる。
	2 結果を予想する。	10	○ 固体の密度が液体より大きくなることを説明するためのモデルを、ワークシートにかかせる。 ○ 前時に考えた気体のモデルを思い出させる。 ○ 正しいモデルでなくても否定しない。 ○ 粒子のモデルから、状態変化(液体→固体)で体積と質量はどう変化するか予想させる。 ※ <u>粒子のモデルを使って状態変化の際の体積や質量の変化を説明し、お互いの考えを深めさせる。【個人→2人→全体】</u> ○ 実験の方法と留意点について説明する。

課題 追 求	3 実験の方法を知る。 (1) 小さいビーカー中の液体のロウの液面に印をつける。 (2) ビーカーごと、液体のロウの質量をはかる。 (3) ビーカーを冷やして、ロウを固体にする。 (4) ビーカーごと固体のロウの質量をはかる。 (5) 固まったようすをスケッチして、体積の変化を比べる。	5	<ul style="list-style-type: none"> ビーカーを運ぶ際は、できるだけ液面を動かさないようにする。 電子てんびんは、置く場所で測定値が違ってしまうので、同じ場所で測定する。 氷水などがロウの中に入らないようにし、ビーカーは水平に保つようにする。 ビーカーに着いた水滴を拭いてから質量をはかる。
	4 実験を行い、情報を集める。	1 0	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">興味を持って進んで実験することができる。(観察)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 状態変化前後の体積と質量を調べ記録させる。
	5 実験の結果から、モデルを使って説明する。	1 0	
	6 まとめたことを発表する。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">状態変化(固体→液体→気体)の前後で質量は変わらないが、体積は大きくなっていくことをモデルを使って説明することができる。(発表)</div> <p>※ 豊かな学力として定着させるために、<u>粒子のモデルを使って説明させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まとめたことを発表させる。【全体】
まとめ	7 本時のまとめをす 8 次時の予告	5	<p>※ <u>実験でわかったことを自分の言葉でまとめさせる。(視点3)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験でわかったことを、発表することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">状態変化の前後で体積は変化するが質量は変わらないことを説明することができる。(発表)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次の時間は、ロウやエタノール以外の物質では、状態変化のときの体積や質量がどう変化するかについて学習することを説明する。

授業は最後までいかず、ここで終わってしまいました。実際には、計画していた10分でモデルで説明できなかつたので、残り10分あわせて20分使って、生徒に考えさせました。授業者は「とにかくモデルを使って自分の言葉で表すことが目標だったので。」と、事後のコメントで述べていました。なかなかできそうで、できないことです。しかし、この単元で育てる力を目指して、本時のめあてを明確にすることにより、腰を据えて行うことができたと思います。

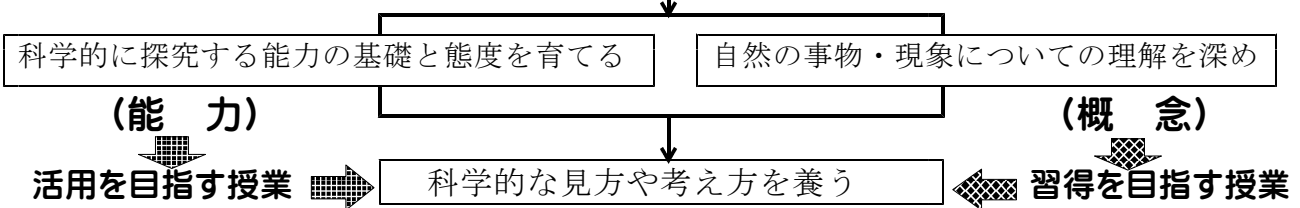
今回の授業者は、生徒の説明が論理的になるよう一人一人つきっきりで助言し、何度も改善を求めました。大変厳しさにあふれる授業でしたが、生徒たちが授業後満足した顔をしていたのが大変印象的でした。「力」を付けるためには、このような授業が大切だと思います。学力向上に大切なものを、見せていただいたように思いました。

今、理科で目指したい授業

学習指導要領が変わりました。理科の目標は？何を変えましたか？

【中学校理科の目標】

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い



単元で身に付ける【能力】と獲得する【概念】を明確にし、その”両立”を図る単元構成を計画する。

《中学校1年 身近な物理現象》を例として、次のような手順で考えてみましょう。
単元で身に付ける能力獲得する概念を明確にする。

身近な事物・現象についての観察、実験を通して

- ・光や音の規則性、力の性質について理解させるとともに、(獲得する概念)
- ・これらの事物・現象を日常生活や社会と関連付けて科学的にみる見方や考え方を養う。(身に付ける能力)

② 「能力」を身に付けるために、活用を図る授業を設計する。

- ・「能力」は教えることが困難で、身に付けるには児童生徒の主体的な問題解決の活動が不可欠です。そのために、活用を図る授業に積極的に取り組む必要があります。

③ 単元構成を工夫する。

- ・「概念」をしっかり獲得した上で、「能力」を身につけさせる授業が可能です。この2つを単元全体としてどのように組み合わせるか？教師の創意工夫が試されます。

本時の【めあて】を明確にし、確実に評価する。

- ・「概念」を獲得する授業と「能力」を身につけさせる授業では、当然ねらいが異なり、授業の流れも大きく変わってきます。単元構成における本時の位置付けを明確にすることにより、本時の【めあて】が明確になり、併せて評価規準が明確になり、評価を確実に行うことができます。

授業において、児童生徒に課題意識をしっかりとらせ、主体的な問題解決の学習がなされるようにする。

- ・以上をまとめると、単元のどこで「何を身に付け」、「主体的に問題解決させるか」、単元全体をもとにした指導計画が必要です。その上で、本時のねらいを明確にし、確実に評価する授業の積み重ねが大切です。
- ・最後に、主体的な問題解決が行われるためには、教師からの一方的な「課題提示」ではなく、児童生徒の疑問や驚きから導かれる(課題意識に基づいた)「課題づくり」が必要です。

共通事項を明確にした音楽づくりの実践事例

第2学年 音楽科学習指導案

1 題材名 おまつりの音楽をつくろう

2 題材の目標

- (1) 太鼓のリズムやその組み合わせに興味・関心を持ち、拍にのって即興的な表現に進んで取り組もう
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) リズムの違いを聴き取り、その組み合わせが生み出す面白さを感じ取りながら、自分なりの発想をもって組み合わせや音の出し方を工夫している。
(音楽表現の創意工夫)
- (3) リズムを組み合わせでつくった音楽を即興的に演奏している。
(音楽表現の技能)

3 題材設定の理由

子どもたちは、1学期に学習した『ことばでリズム』で、お祭りの掛け声の音楽に親しみ、自分たちの掛け声のリズムをつくる音遊びを経験している。また、前題材『おまつりの音楽』の歌唱教材「村まつり」で、楽曲のもつ2拍子の弾むリズムを感じ取り、生き生きと歌うことを学習している。さらに、鑑賞教材「日本のたいこ」では、様々な日本太鼓の音色やリズムを聴き取り、その違いや面白さ、豊かな響きを感じ、自分たちも和太鼓を演奏してみたいという願いを持つようになった。これまでの音楽づくりにおいては、『どんな音が聞こえるかな』で身の回りの音探しを通して音の特徴や美しさ、面白さに気づき、さらに『虫の声をつくろう』で、楽器や音素材を使って虫の声をつくることを経験している。そうした音遊びの経験を重ねながら、子どもたちは即興的な音楽表現に取り組むことを楽しむようになってきている。自分の思いを素直に表現し、活動をおもいきり楽しむことができる子が多いが、自分の意図する音やリズムを見付けられない子どももいる。

本題材は、学習指導要領 A 表現 (3) イ「音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること」を受けて設定した。即興的な表現をする上で、リズムや拍という音楽を形づくっている要素により深く関わり、自分たちのお祭りの音楽を表現する面白さや拍の流れに乗る心地よさを味わうことが期待できる。また、これまで取り組んで来た楽器とはまた違った和太鼓のよさに気づき、その演奏にも興味を持って取り組ませることのできる題材である。

指導に当たっては、「♪♪」「♪♪♪」「♪♪♪♪」「♪♪♪♪♪」「♪♪♪♪♪♪」「♪♪♪♪♪♪♪」の6つの2拍子の太鼓のリズムを提示する。その中から、子どもたちは、4小節の音楽になるようにリズムを選ぶ。そして、和太鼓で演奏し、一人一人が思いをもって表現できるようにしていく。そのためには、音を試しながら拍の流れにのることを体で感じ取らせ、つくったリズムに「音色(奏法)」「強弱」「速度」などの工夫を加えていくようにする。そして、個の考えや表現をもとに、友だちとの関わりの中でよりよい音楽へと高めていくさせたい。この学習を通して音の面白さや豊かさに触れ、音楽を即興的につくることを楽しむ子どもを育てて行きたい。

4 題材で扱う共通事項 (太字は本時)

ア、音楽を形づくっている要素

(ア) 音楽を特徴づけている要素・・・**拍の流れ、リズム**、音色、速度、強弱

(イ) 音楽の仕組み・・・・・・・・・・問いと答え、反復

イ、音符・休符・記号や音楽に関わる用語・・・・・・・・♪♪♪

この題材や本時で扱う共通事項が明確にされています。

5 学習計画 (総時数3時間)

- リズムカードを4枚選び、即興で太鼓のリズムをつくる。(個のリズム) (1)
- つくったリズムをつなぎ、拍の流れにのって和太鼓の演奏を楽しむ。(グループのおまつりの音楽) (1) 本時
- 掛け声のリズムや強弱、速度、音色(奏法)を工夫してグループのおまつりの音楽を発表する。(1)

6 本時の目標

- 2拍子の拍の流れにのり、一人一人が創った太鼓のリズムをつないで、お祭りの音楽を演奏している。
(音楽表現の技能)

7 目標にせまるために

(1)「拍の流れをつかむ活動」

常時活動での音遊び

(2)「見通しを持ち、主体的な表現を促す活動」

- リズムカードの活用
- 演奏の形の提示 (指導過程参照)・・・個の表現をつなげてグループの音楽にしていく。
- 工夫の視点の提示 (音色、速度、強弱)

(3)「友だちのよさを感じ伝え合う活動」

- 全体の場での発表

8 学習過程

時間	学 習 活 動 ・ 内 容	○ 教 師 の 支 援 □ 評 価
5	1. 常時活動をする。 ・まねっこ遊び ・「村まつり」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で扱う「拍の流れ」につながる活動になるようにする。 ○ 歌詞の表す情景を感じ、曲の気分合った歌い方をしているかを問いかけ、よかったところを称賛する。 ○ 前時の学習を想起させ、一人一人がつくったリズムを生かし、友だちと協力しながらグループのお祭りの音楽にしていくことへの意欲を持つことができるようにする。 ○ 本時では、個々のつくったリズムをつないでいく学習が主となる活動なので、間に入れる掛け声は同じにする。 ○ 始まりと終わりに合図の掛け声を入れることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>太鼓の演奏の間に「かけ声」を入れたことでお祭りらしさが増しました。また、演奏を交代する間ができてグループでの演奏が大変スムーズになりました。</p> </div>
5	2. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">リズムをつないでおまつりの音楽をつくって演奏しよう。</div>	
5	3. 活動についての見通しを持つ。 <演奏の形> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>* 始まりのかけ声</p> <p>□1 かけ声 □2 かけ声 □3 かけ声 □4</p> <p>* 終わりのかけ声</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 活動の場 ◇ 和太鼓の扱い方 ◇ 演奏の順番 	
15	4. 拍の流れを感じ、途切れないようにリズムをつないでグループの「おまつりの音楽」をつくる。 ・音を試す 演奏→話し合い→演奏	
	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;">ほとんどの児童が、前時に自分で創ったリズムを途切れることなく(拍の流れに乗って)演奏していました。また、ほとんどのグループがスムーズに演奏をつないでいました。止まってしまう児童には教師が個別に支援していました。本時のねらいを「拍の流れ」「リズム」に絞ったことがよかったと思います。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2拍子の流れにのって演奏すること意識して取り組ませるが、うまくのれない子どもには教師がクラベスでテンポをとり、拍の流れを感じて演奏することができるように支援する。 ○ 4人のリズムがうまくつながるようになったら、音色、強弱、速度を工夫し、さらに思いをもって演奏できるように声を掛ける。

10	<p>5. 全体の場で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとの演奏 <p>発表は、緊張しながらも楽しんで演奏している様子が見て取れました。ねらいである「自分で創ったリズムを拍の流れに乗ってつなぎ、楽しむ」という目標は確実に達成されていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想交流 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>リズムをつなぎ、拍の流れに乗って、自分でつくったおまつりの音楽を演奏している。 (行動の観察 演奏の聴取 学習日記の記述)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聴き手も拍の流れを感じながら掛け声に加わることで、演奏に関わり、友だちの演奏を共感的にとらえることができるようにする。 ○ 友だちのよさを音楽を形づくっている要素などの根拠を明らかにして伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ちゃんと拍が合っていたのでよかったと思います。」という、ねらいにそったとても確かな感想が聞かれました。</p> </div>
5	<p>6. 学習日記を書き、本時の活動を振り返る。</p>	

思考、判断する場面が設定されている実践事例

第3学年 音楽科学習指導案

1 研究主題 「自ら学び、確かな学力を身に付けた生徒の育成」～言語活動の充実を通して～

2 題材名 日本の歌に親しもう 「椰子の実」(島崎藤村作詞/大中寅二作曲)

3 題材設定の理由

(1) 生徒観 (男子14名、女子15名、計29名)

生徒達は、毎時間の授業に意欲的に取り組んでいる。歌唱では、校内合唱コンクールに向けて、姿勢や発声などの基礎的な技能を身につけ、歌詞や強弱記号の意味から感じ取ったイメージをパートで話し合いながら練習を進めてきた。お互いの考えを交流し合うことで、よりよい表現を求めて活動する楽しさを味わうことができた。しかし、自分の歌声がイメージに合った声で表現できているかを客観的に判断しながら表現を深めていける生徒は2～3人しかいない。

(2) 教材観

「椰子の実」は、島崎藤村が作詞し、大中寅二によって作曲された。明治31年夏、東京帝国大学2年だった柳田國男が、愛知県伊良湖岬の突端で1ヶ月滞在したとき、「風の強かった翌朝は黒潮に乗って幾年月の旅の果て、椰子の実が一つ。岬の流れから日本民族の故郷は南洋諸島だと確信した」といった話を親友だった藤村にし、藤村はその話にヒントを得て「椰子の実の漂泊の旅に自分が故郷を離れてさまよう憂い」を重ね、この詩を書いた。藤村26歳の作品である。岐阜県の裕福な家庭に育った藤村は、青春時代に就職と辞職を繰り返し、親友や愛する人の死に遭うなど波乱な人生を経験した。その後は仙台に赴任している。その自分の姿や思いを椰子の実に重ねたのである。その浜辺は恋路ヶ浜とされている。

またこの曲は、昭和11年、NHKの担当者が大中寅二を訪問し、作曲を依頼した。曲はすぐに完成し、ラジオを通して広まり、職場や学校で歌われるようになった。4/4拍子、ト長調、♩=69で、浜辺に打ち寄せる波を連想させる叙情的な旋律と、細かい強弱の変化により、郷愁を誘う作品となっている。

音程の上がり下がりやクレセント・デクレセントの反復で、やや難易度の高い曲ではあるが、歌詞のイメージを結びつけて表現しやすい作品である。また、卒業を意識し始めた生徒たちにとって、自分の進路や「ふるさと会津」を再確認するにふさわしい作品だと考える。この作品を通して、イメージした情景や思いを歌声で表現できる力を養いたい。

(3) 指導観

事前の道徳の時間において、「椰子の実」の詩の解釈と作者の思いを考えさせ、自分の今後の人生をイメージさせる。

1時目には、音程を取りながら、旋律や強弱と歌詞の情景との結びつきに気づかせたい。本時では3番を取り上げ、何度も出てくるクレセントの幅をどれだけの変化にさせるか、なぜpになるのかなどの理由を考えさせることで、歌詞の情景や作詞者の思いを表現できるようにする。また、ペア活動を取り入れ、生徒一人一人が思いを持って歌い、それが相手に伝わっているかどうかをお互いに聴き合って評価し合わせる。

これにより、歌声で表現することの難しさを実感させると共に、思いを持って表現を深めていくことの楽しさを味わわせ、今後の楽曲にもつなげていきたい。これらの活動を通して、歌詞の情景と強弱記号を結びつけながら考え、その考えを相手に分かりやすく説明したり、歌声で表現できるように追求したりして、表現を充実させたい。さらに、表現活動に取り組む際には、作曲者の意図を読み取って工夫していくことが重要であることに触れていきたい。

4 題材の目標

(1) 音楽への関心・意欲・態度

○ 旋律や歌詞の情景を味わい、表現活動に意欲的に取り組んでいる。

(2) 音楽表現の創意工夫

○ 歌詞の情景と諸記号とのかかわりを感じ取り、自分の思いや意図をもって表現を工夫している。

(3) 音楽表現の技能

○ 曲にふさわしい表現をするための技能(日本語の発音、発声、呼吸法)を身に付けて歌っている。

5 学習活動と評価規準 総時数2時間 本時(第2時)

時	学習活動(時数)	評価規準		
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	「椰子の実」を、歌詞の内容を味わいながら強弱を付けて表現する。	歌詞の内容に関心を持ち、意欲的に歌っている。	拍子、速度、旋律や強弱を知覚し、雰囲気を感じ受している。	
2	「椰子の実」の記号の理由を歌詞の情景と結びつけて考え、ペア活動で表現を深める。		旋律の動きや強弱を知覚し雰囲気を感じ受しながら、歌詞の内容を味わってどのように歌うか思いを持っている。	歌詞の内容を生かした音楽表現をするために必要な発声や日本語の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

6 本時の目標

- 旋律の動きや強弱を知覚し雰囲気を感じながら歌詞の内容を味わってどのように歌うか思いを持っている。
(音楽表現の創意工夫)
- 発声や日本語の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。
(音楽表現の技能)

7 研究主題との関連

音楽教育における言語活動として考えられるのは、自分(自分たち)の創りたい音楽についてのイメージを持ち、自分なりの思いや意図を持って表現したことについての特に音楽的な要素について友人と意見を交換することと考えた。
また、鑑賞して感じ取ったことを、音楽用語を用いて相手に伝えることで、自分の感性を高めることはもちろん、その思いを友人と共有できることも挙げられる。本時は、前者のねらいをふまえ、表現を工夫するペア学習を取り入れ、お互いにアドバイスし合いながらよりよい表現を追求する授業を展開することとした。

8 準備物 生徒：教科書、プリント

9 学習指導過程

階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点	評価(方法)
導入	1 詩を朗読し、本時のねらいを把握する。 歌詞から想像される情景やイメージを生かすには、強弱の変化、日本語の発音や発声をどのように工夫すればいいか、自分で考えて歌ったり聴いたりしてみよう。	2	一斉	○記号がついている理由に着目させ、見通しを持たせる。	
展開	2 なぜその記号がついているのかを考える。 (1) 3番を強弱記号のとおりに通して歌う。 (2) 記号の意図を確認する。 ① 前時の活動を振り返り、歌詞の情景と関わらせて記号の意図を確認する。 ② 表現に必要な技能について、自分の考えを発表する。 ※情景を表現するために必要な技能 発声：pの口の開け方、丹田からの息響きのポイント 発音：母音のレガート感・息の流れ 子音の入れ方 顔の表情：目をつぶる、遠くを見る まゆ毛を上げる など 発音や発声等、曲にふさわしい表現に必要な技能が明確にされています	1 5 (2) (5) (8)	一斉 個人 一斉	○3番に絞る ○詩の朗読からイメージを膨らませる。 ○対訳と合わせて確認させ、新たに考えたことを教科書に書き込ませる。 ○自主的な取り組みを賞賛する。 ○発表の際には、他の意見をつないでいけるように、「つなぎ言葉」を意識させる。 ○生徒の発表を歌声で範唱してみることで、どのように歌ったらいいのかイメージを膨らませる。	
	3 表現を工夫する。 (1) 一斉に歌う。 ※ 声色の変化、顔の表情、目線 など (2) ペアで互いに聴き合いアドバイスする。 ① 表現について自分の考えを伝える。 ② 意図どおりに表現できたか評価する。 ③ 評価を生かしてもう一度歌う。 ※ 交代してもう一度歌う。 生徒が歌詞や強弱記号、先生のヒントを手掛かりに表現について自分で考え判断して、思いや意図をもって表現し鑑賞するもっとも重要な場面です。	2 5 (5) (20)	一斉 ペア	○教師の範読・範唱を通して、少しでも意識の変化が現れているか見つけ、賞賛する。 ○相手の表現について批評し合あわせ、それをふまえて更に表現を工夫させる。 ○相手に自分の考えを伝えることをしっかりやるようにさせる。 ○自分の思いを相手に伝え、表現を工夫しようとしているペアについて、積極的に賞賛する。 ○可能な限り生徒の思いや意図を尊重する。	歌詞の内容を味わって、どのように歌うか思いを持っている。(観察、発表、プリント)
	4 情景を味わいながらまとめの歌唱をする。 ※ できればフルコーラスで。時間がなければ、3番のみとする。	3	一斉		発声や日本語の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。(観察、歌唱テスト(後日))
	5 本時の反省をし、次時に向けての意欲を高める。 (1) プリントに感想を記入する。 (2) 数名の発表を聞く。	5	一斉		○意欲的に活動したことを賞賛する。 ○これからも、歌詞の情景や作曲者の意図を読み取り、思いを持って表現活動していくように意識付けさせる。

- この授業の山場である、「ペアで表現を工夫する場面」では次のような話合いがされていました。ここから、生徒が「思いや意図」をもっていること。それに基づいて「音楽的な技能」を使って歌っていること。また、それを聴いて意図通りの表現になっているかどうか「判断」していること、が見て取れます。また、ペアでアドバイスし合う過程に、音楽的な言語活動が活発に行われています。

Aさん「3番の後半の『おもいやるやえのしおじお』からを、落ち着いて懐かしく思い出してしみりとした感じをだすためにピアノで歌ってみるからちゃんとピアノになっているか、しみりとした感じになっているか聴いていてね。」

～ Aさんが歌い、Bさんが聴く ～

Bさん「前半と比べて、後半がはっきりとピアノになったのがよくわかった。自分自身に言い聞かせているようなしみりとした感じが伝わってきた。

さっき先生から説明があったレガートで歌うように気を付ければしみりとした感じももっとよく表現できると思う。」

Aさん「では、さっき全員で歌ったときに先生がやっていた息の流れに気を付けてレガートで歌ってみるから聴いていてね。」

Cさん「3番の『あらたなりりゅうりのうれい』のところを、ふるさとを離れて暮らす人がその悲しい思いを改めて感じている様子を伝えるために、『あらた』、『りゅうり』、『うれい』の言葉をそれぞれはっきりと発音し、クレッシェンドをつけて歌ってみるので、言葉がはっきりしているか、クレッシェンドがわかるか、悲しい感じになっているか聴いてね。」

～ Cさんが歌いDさんが聴く ～

Dさん「言葉をはっきり歌おうとしたのは分かったけれど『なり』の『り』と『りゅうり』の『り』をもっとはっきり区別した方が良いと思う。クレッシェンドで『あらた』と『りゅうり』という言葉が強調されたのがよくわかった。悲しい感じというよりは、言葉を大切に発声や発音に気を付けて一生懸命歌っているのが伝わってきてとてもよかったと思う。」

Cさん「ありがとう。では、さっき先生から説明があった口の開け方に気を付けてもっと大きな口で、表情では悲しい感じが表せるような表情で歌ってみるから聴いていてね。」

今、音楽科で目指したい授業

～ 大切にしたい3つのこと ～

音楽に対する感性を育てる!

基礎的・基本的な技能を身に付けること（習得）と、それを生かして音楽を工夫し思い通りになったか判断していく活動（活用）を確実に組み入れていきましょう。

「どう表現したいのか。自分のイメージ通りに表現するにはどうすればいいのか。自分のイメージ通りに演奏できたか。」といった「音楽の内容について思考して判断する時間」を学習過程に位置付けるようにしましょう。

共通事項を確実に押さえる!

指導計画を作る段階で、「この題材で**共通事項**の何を教えるのか明確にし、さらに、どの場面でどのように指導するのか、具体的にして授業に臨みましょう。

一単位時間の授業で何を教え、何を評価するのか明確にして授業に臨みましょう。

※別紙 具体例

共通事項（小学校低学年）

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

(イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み

イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

「音楽づくり(小)、創作(中)」、「鑑賞領域」の充実を!

音楽づくり（小）、創作（中）、鑑賞の授業にさらに積極的に取り組みましょう。

年間計画に位置付け、確実に実施していきましょう。

※別紙

1 「せいじゃの行進」の題材の評価規準の例（表現領域のみ）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
評価規準の設定例	・友達の楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	・互いの楽器の音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図を持っている。	・友達の楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて重奏や合奏をしている。
具体的な例	・他のパートのリコーダーの旋律を聴き、かけあいの部分はかけあいになるように、音の重なりのところは美しい和音になるようにする学習に進んで取り組もうとしている。	・①と②のパートのかけあいの部分、音の重なり部分を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、かけあいの部分ではそれぞれのパートを対等の関係で演奏すること、音が重なっているところは主旋律を目立たせるように演奏することについて思いや意図を持っている。	・他のパートのリコーダーの音を聴きながら、タンギングや息の入れ方に気をつけて、音を合わせて重奏や合奏をしている。

★「評価規準の設定例」は、国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」からの抜粋です。これはあくまでも例なので、これを参考にするとき実際に題材で扱う楽曲の特徴をよく分析して具体的にすることで、よりねらいが明確になってきます。

2 本時の評価の内容と方法の例

1 小節から5小節までがかけあいになっていることを聴き取っているか、展開前段で挙手及びワークシートで把握する。

①と②のパートの1～5小節を同じ強さやアーティキュレーションで演奏することを意図して、思いを持って演奏しているか、グループ練習の際にペアで重奏させて把握する。

教え合い、学び合いを通じて、楽しく学ぶ跳び箱運動の実践事例

(小学校3年)

体育の授業では目の前の子どもたちに何とか技能や体力を身につけさせようと、教師ができるためのポイントを伝え教え込むことがあります。しかし、体育ではできるかできないかだけでなく、できるようになるための思考・判断や繰り返しチャレンジするなどできるようになるためのプロセスが重要です。

本授業では、子どもたちが互いに教え合いや学び合う活動を通して、主体的に技能や体力を身につけることをねらいとした学習活動が見られます。その中で特に大きな役割を果たしているのが言語活動です。子どもたちの教え合い、学び合い活動をより効果的しようとする授業者の工夫が多く場面で見られます。

1 単元名 跳び箱運動

2 単元の目標

- (1) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (2) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるための活動を工夫できるようにする。(思考・判断)
- (3) 基本的な支持跳び越し技の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。(技能)

3 目指す子どもを育てるために (最後に記載)

1時間で評価できる項目は限られます。毎時における評価項目を絞り、ねらい、指導、評価が一本化するよう計画されています。

4 本教材の学びの位置づけ (省略)

5 指導と評価計画 (全5時間・・本時3 / 5時間)

時	学 習 内 容	関	思	技	評価方法
1	オリエンテーション	○			活動・学習カード
2	共通課題「開脚跳び」に挑戦			○	活動・学習カード
3	共通課題「かかえ込み跳び」に挑戦 (本時)		○		活動・つばやき・学習カード
4	共通課題「台上前転」に挑戦			○	活動・学習カード
5	3学年跳び箱運動オリンピック	○		○	活動・学習カード

6 本時の目標

共通課題「かかえ込み跳び」に挑戦しながら、友だちと動きを見合い、気付いたことを教え合うことができる。(思考・判断)

7 学習過程

段階	学 習 活 動 ・ 内 容	時間	○教師の働きかけ □評 価
つ か む	1 本時の学習内容の確認をする。 (1)準備運動 身体運動づくりプログラム (2)めあての確認 見つけたコツを教え合って練習しよう。(かかえ込み跳び)	10	○教師の働きかけ □評 価 ○ 主運動へのつながりを説明しながら行い、正しい動きを意識して運動することができるようにしていく 子どもたちの理解を深めるために、手本となる写真と失敗例を並べて掲示していました。違いが明らかとなり、その後の教え合いや学び合いの活動に生かされます。 ○ 学習計画表や技の分解図、子どもの発言等から既習事項や本時の学習内容を確認する。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふ か め る</p>	<p>2 飛び箱運動をする。</p> <p>(1)開脚跳びの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を飛び箱の前にパンと着こう。 ・～君にアドバイスをもらいできた。 ・ここをよく見ていてね。 <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #ffff00;"> <p>運動のポイントを理解させるには、授業者は事前に子どもたちの発言を予想し、キーワードとなることばを引き出すようヒントを与えることが大切です。また、子どもたちに、発言したこと内容を体で表現させることでさらに理解を深めることにつながります。</p> </div> <p>(2)かかえ込み跳びの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦の飛び箱でやってみよう。 ・エアマットでやってみよう。 ・跳び上がりをやってみよう <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #ffff00;"> <p>飛び箱運動では、安全確保と恐怖心を克服することが大切です。そのためには、段階的に難易度をあげていく必要があります。</p> <p>段階ごとに場を設定したり、その際の運動のポイントを示したり授業者の工夫・配慮が必要です。</p> </div>	<p>10</p> <p>20</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の見取りをもとに友だちと教え合って技ができた子どもの思いを全体に伝え、めあてをより意識させる。 ○ コツを振り返り、互いに見合いながら正しい動きで跳べるようにする。 ○ 学習カードや友だちの動きからコツを見つけ、共有化していく。 <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #ffff00;"> <p>学習カードに各運動のポイントを記載しておくことで、記載された内容と友達の動きを見比べ、子どもたちが教え合いや学び合う際の参考となります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ スモールステップで、できた喜びを味わいながら練習することで、飛び箱の苦手な子どもたちも意欲的に活動できるようにする。 ○ 友だちと関わる場を設け、学び合いのよさを感じさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「かかえ込み跳び」に挑戦しながら、友だちと動きを見合い、気付いたことを教え合うことができたか。</p> <p style="text-align: right;">(活動の様子・学習カード)</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふ り か え る</p>	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1)学習カードへの記入</p> <p>(2)感じたことの発表</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学び合いのよさを味わえるように、視点をしばってカードに記入させる。 <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #ffff00;"> <p>どのようなアドバイスが分かりやすく上達につながったのかを意識し記入させることで、本時のねらいに迫っています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 技ができた友だちやがんばっていた友だちを紹介し合い、学び合いの雰囲気作りや次時の意欲につなげる。

授業者は次に示した「目指す子どもを育てるために」を作成し、これに基づいて指導・評価経の計画を作り上げています。どのような子どもを育てるのか、そのためにはどのような学習活動を取り入れるのか、思考を重ね授業が組み立てられています。

* 「指す子どもを育てるために」

目指す子ども像
自分や友だちの動き、学習カードからわざがができるようになるコツを見つけ、友だち教え合いながら技の習得をめざす子ども



子どもの現れと見とり	
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習カードに記入した感想や技能の習得の記録などから気になる子どもをとらえることで、次時の指導の手立てへつなげていく。 ○ 誰のどんなアドバイスやつぶやきが学び合いをうまく機能させたのかを見とり表をもとに振り返ることで、次時の組み立てに生かしていく。
事中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習カードや掲示物を利用して本時までの学習を振り返り、自分やグループの技能面での伸びや心情面での変化を把握する時間を設ける。その際の発言やつぶやきから子どもの本時に対する思いを見とり、助言に生かしていく。 ○ 友だちの動きを見、技の習得につながるコツを話し合う場を設ける。動きを見る視点を明確にすることで、焦点化した話し合いになるようにし、そこで出されたコツが子ども一人一人にとって必要感のあるものにしていく。 ○ ペアやグループで友だちの動きを見て感じたことや自分で動いてみて感じたことを話す場を設け、子どもが感じていることを教師がとらえ、全体に広げていくことで、技のコツの話し合いの練り上げに生かしていく。 ○ スモールステップで技を練習する場を設定し、できるようになったことを学習カードに記入することで、子どもの能力に応じた達成感を味わわせると共に、子どもの技の上達度を見とり、補助や助言に生かしていく。 ○ ふりかえりの段階で、友だちとの学び合いについて考え、発表する場を設定することで友だちとアドバイスし合い、技能の習得につながった思いや話し合いを通して感じたことを表出させ、全体に広めていくことで学び合いのよさを味わわせていく。
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートにより本單元に対する技能面・心情面を見取る。 ○ 「体育ファイル」から本時までの技能面の伸び・心情面の変化を見取る ○ 日常生活や日記等から見取ったことと本単元の学習内容を重ね合わせる。



子どもの現れと教師の願い(一部抜粋)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本單元では、共通課題を設定し全員でその習得を目指して練習していく。 ○ 技を習得するまでの過程をスモールステップにして、課題達成の喜びを味わいながら練習していけるようにする。 ○ 互いに動きを見合い、感じたことを伝え合ったり、技ができるようになるコツを教え合ったりする場を設けることで、友だちと学び合うよさも味わわせたい。 ○ 本時では、共通課題「かかえ込み跳び」に挑戦する。習得までの流れをスモールステップにした学習カードを活用して、様々な場で練習することで、苦手意識がある児童が安心して活動できるようにし、跳び箱への自信につなげていきたい。 ○ 目線や手の着き方など視点を明確にして動きを見、コツを見つけ、教え合いながら進めることでできた喜びを共有できるようにしていく。 ○ その過程で、意欲的に活動することが予想される児童に対して友だちにアドバイスする場を意図的に設け、友だちができるようになったときの満足感を味わわせたり、運動に対して積極的になってきた児童に対して動きを見てもらい、アドバイスを受ける場を設け、友だちと関わることの楽しさをよさを味わわせより運動への意欲を高めたりしていきたい。 	

楽しく学べる長距離走の実践事例（中学校）

多くの指導者から、「長距離走の学習では、苦手意識を持つ生徒が多く、意欲的に学習させることが難しい。」との声が聞かれます。ここでは、生徒が楽しみながら長距離走の学習に取り組んだ実践を2例紹介します。1つは、駅伝を活用して仲間との協力や競争の意識を高め取り組んだ事例、もう一つは、学習カードを活用して記録をグラフ化するなど、科学的な視点から運動の特性に触れ、自己の体力向上につなげた事例です。これらは、生徒の実態に応じて各校で応用できる長距離走の授業です。

I 駅伝を活用して仲間との協力や競争の意識を高め、記録向上に取り組んだ事例

（中学校1年 男女）

- 1 単元名 陸上競技 長距離走
- 2 単元の目標
 - (1) 健康や安全に留意し、互いに協力して練習や記録測定をしようとする。（関心・意欲・態度）
 - (2) 効果的な練習の方法を考えたり、チームで作戦をたてることができる。（思考・判断）
 - (3) 自分にあったペース配分やウォーミングアップの仕方を身につけ、一定の距離を走ることができる。（技能）
 - (4) 長距離走の特性やルール、合理的な練習の仕方などを理解することができる。（知識・理解）
- 4 単元設定の理由（省略）
- 5 指導計画(省略) *総時数8時間 本時（5／8）
- 6 本時の目標
 - チームと個人の記録を向上させようと互いに協力し学習することができる。（関心・意欲・態度）
 - ウォーミングアップの方法や、走順、ペース配分などの作戦を工夫できる。（思考・判断）
- 7 準備物（記録用紙 バインダー ストップウォッチ 筆記用具 たすき カラーコーン）
- 8 指導過程

段階	学習内容・活動 ・予想される生徒の活動	時間	○教師の支援 ・留意点 評価
導入	1 整列・あいさつ・健康観察 2 本時の課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> チームと個人の記録を向上させるために、協力してウォーミングアップと、走順やペース配分など作戦を工夫しよう。 </div> 3 駅伝大会経験者がウォーミングアップ内容とポイントを発表する。 <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 長距離走を得意とする生徒の失敗や成功例から、ウォーミングアップの大切さを考えさせています。 </div>	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体調の確認と、見学者への指示をする。 ・ 長距離走における体調管理の重要性を意識させる。 ○ 本時の流れを説明し、課題を把握させる。 ・ ミニ駅伝の区間は、体力や運動能力の個人差が大きいことを考慮し、600m、800、1000mの3つの距離を組み合わせることを伝える。 ・ ミニ駅伝の開始時刻を示し、作戦や練習に係る時間配分に留意させる。 ○ 長距離走の経験者にウォーミングアップの失敗や成功例を発表させる。 ・ ウォーミングアップの善し悪しが記録に大きく関係することを補足する。

展 開	<p>4 班ごとにウォーミングアップを行う。</p> <p>①ウォーミングアップの内容を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで行ってきたものや、自分の所属する運動部のウォーミングアップを参考に取り入れる。 <p>②班ごとにウォーミングアップを行う。 (予想される生徒の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースやトラックを利用したジョギング ・準備運動、ストレッチ ・流し (ウインドスプリント) など ・ペース走 (200~400m) <p>5 ミニ駅伝を行う。</p> <p>①チームで作戦を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自チームの走力の実態や、ウォーミングアップを通しての体調などを考慮し、担当する距離と区間を決める。 <p>②ミニ駅伝を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1区~5区で実施する。 1区 600m 2区 800m 3区 600m 4区 1000m 5区 800m <p>個人の能力に応じた距離を選択することで、各個人の学習意欲を高め、チームとしての作戦を考える楽しさを味わうことにもつながります。</p>	<p>15 ○ 学習カードを活用し、ウォーミングアップの内容と、各区間の目標タイムを記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが進まないチームに対し、ウォーミングアップの方法等を助言する。 <p>記録を向上させるためにどのような工夫をしたのか、その結果、記録はどうなったのかを考察させています。</p> <p>前時までのウォーミングアップ内容と比べ、長距離走に応じた運動を取り入れ工夫しウォーミングアップを行っているか。 (観察)</p> <p>20 ○ 走順や目標タイムを決め、ペースについて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅伝では、走順によってチームの記録が大きく影響することを伝え、チームに最適な順序を考えるよう指示する。 <p>各チームに走者への励ましや通過タイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペース配分について声をかけるよう指示することで、チームが一体となり、より駅伝の楽しさを味わうことにつながります。 <p>チームにあった目標と作戦を立て、達成しようとしているか。(観察)</p>
終 末	<p>6 本時の学習のまとめを行う。</p> <p>「思考・判断」を評価するには、教師の観察だけでは難しく、学習カードへの記入による方法が効果的です。本時のねらいに対して、生徒の創意工夫、成果と課題などが記録されているかが大切です。</p> <p>7 次時の確認と自己評価を行う。</p> <p>8 あいさつ</p>	<p>8 ○ カードを使って本時の反省と次への目標を確認させる。</p> <p>ウォーミングアップや走順、ペース配分によって、記録を向上させるよう工夫することができたか。 (学習カード)</p> <p>○ 次時へ向け、改善や工夫が必要な生徒へアドバイスをする。</p>

長距離走は男女差や個人の体力の差が顕著に現れる種目です。当校では普段は2クラスを別々に共修で行っていますが、今回は2クラス合同・男女共修で授業が行われました。授業者は、生徒の体力や走力に差があることで、作戦を立てたり協力したりしてその差をカバーし合い、いっそう駅伝の楽しさを体験できるものと考えて指導計画を立てています。

Ⅱ 科学的な視点から長距離走の特性に触れ、楽しく記録を向上させる学習の事例

(中学校3年 男)

1 単元名 陸上競技 長距離走

2 単元設定の理由

- (1) 生徒観(省略)
- (2) 教材観(省略)
- (3) 指導観

本校では長距離走を3年間通して履修している。それは、呼吸器・循環器が最も著しく発育・発達する中学生期にその機能を高めたいと考えているからである。しかしながら、生徒観・教材観でも触れたように苦しいことをやりたくない生徒が増えているのが実情である。そこで、苦しい中でも自発的に課題に取り組む場を設定してやれば、意欲的な活動が期待できると考えた。そのために、目標(5分間で走れる最高距離)を達成するための手段(ペース配分)を生徒自身につかませる学習カードを活用しながら授業を展開したい。また、言語活動の充実を図るために、ペアを組んでお互いの記録をつけながら励まし合ったり、支え合ったりすることの繰り返しから、各自の課題の確かめ合いや疑問点の解決に発展するような指導をしていきたい。

3 単元の目標

(1) 技能

- ①自分の能力にあった正しいフォームを見つけ、安定したペースで長く走ることができる。
- ②リズムカルな呼吸法で無理なく走ることができる。

(2) 態度

- ①長い距離を走ったり、競走や記録の向上に関心を持ったりして、学習に取り組もうとしている。
- ②お互いに観察したり、記録を取ったりして協力しながら練習しようとする。
- ③全力を尽くし、結果をきちんと受け止め、さらに向上しようとする。

(3) 思考・判断

- ①効率のよいフォームや呼吸法、ペースを考えることができる。
- ②自分の能力に適したペースを考え、練習を工夫しながら計画的に取り組むことができる。
- ③課題解決や記録の向上のために効果的な練習の仕方を選んだり、見つけたりしている。

(4) 知識

- ①効率のよいフォームや呼吸法、ペースを知る。
- ②長く走る際の呼吸の深さや脈拍の変化についての知識を身につける。

4 学習活動と評価規準

時	学習活動	評価規準 (B規準)			
		関心・意欲	思考・判断	技能	知識・理解
1	オリエンテーション 5分間走	長距離走の学習に積極的に取り組もうとしている。			長く走ることで生じる呼吸の深さや脈拍の変化について理解できる。
2	5分間走		自分の能力に適したペースを考え、カードに記入することができる。	自分の理想のペースで走ることができる。	
3	5分間走 (本時)	ペアの記録を取り、アドバイスをしようとしている。	これまでの学習活動や記録を分析し、自分の能力に適したペースを考えることができる。		
4	1500m 記録測定	全力を尽くし、結果をきちんと受け止め、さらに向上しようとする。		自分に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。	
5	1500m ハンデレース			自分に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。	長距離走で高まる体力について言ったり、書き出したりできる。

5 本時の目標

◎ 5分間走で自己の最高記録に挑戦する。

○ ペアの記録をとったり、アドバイスしたりしながら活動している。(関心・意欲・態度)

○ これまでの学習活動や記録を分析し、自分にあったペースを考える。(思考・判断)

6 研究主題との関わり(省略)

7 準備物 ストップウォッチ カラーコーン 筆記用具 学習カード

8 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価
導入	<p>1 ランニング (校庭2周)</p> <p>2 整列、挨拶、健康観察、本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5分間走で自己にあったペースを把握し、仲間と協力して自己の最高記録に挑戦する。</p> </div>	8	一斉	<p>○ 筋温を上げることを意識させる。</p> <p>○ 理想的なペースを例示してイメージさせる。</p> <p>○ 走法や呼吸法を説明する。</p> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習カードに、長距離走におけるピッチやストライド走法、呼吸法を示し、生徒に確実に理解させようと工夫しています。</p> </div>
展開	<p>3 SAQ トレーニング</p> <p>4 前時の反省を生かし、理想とするペース配分を学習カードに記入する。</p> <p>5 脈拍数を測定する。(30秒×2)</p> <p>6 前後半に分かれ、5分間走を行う。 ※ペアは10m おきにおいてあるコーンを目安に1分ごとの加算距離を記録する。</p> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>トラックには10m間隔で小コーン、50mごとには大きなコーンが置かれ、ペアの走った距離を把握しやすいようにしています。</p> </div> <p>7 走った後の脈拍を計測する。(30秒×2)</p>	32	一斉 ペア	<p>○ 動きのポイントを示し、不十分な生徒には個別に支援する。</p> <p>○ ペースをつかめない生徒に個別にアドバイスする。</p> <p>○ 脈拍数がペースと大きく関係することを説明し、正確な数値が測定できるよう安静にさせる。</p> <p>○ 運動強度から運動後の基準となる心拍数は164が目安であることを知らせる。最大心拍数(220-年齢)×80%</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分にあったペース配分を考えているか(思考・判断:学習カード)</p> </div> <p>○ 先頭集団・下位生徒の距離や目安となるタイムを伝える。</p> <p>○ ペアに通過記録や走り方をアドバイスさせる。</p> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>声援や励ましではなく、目標タイムとの差や走り方に対するアドバイスがされていました。指導者が事前に何をアドバイスするのかを示した成果と言えます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ペアの記録をとったり、アドバイスをしたりしているか (関心・意欲・態度:観察・学習カード)</p> </div>

終末	8	ペース配分をグラフ化し、分析する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算が苦手な生徒、わからない生徒には個別にアドバイスする。 ○ 記録されたグラフの理想的な形を説明する。
	9	学習カードに自己評価と感想を記入する。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載する事項は、本時のねらいに添った内容となるよう意識させる。
	10	本時のまとめをする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペース配分通りに走れた生徒、自己記録を更新した生徒を称賛すると共に、成功のポイントを発表させる。 ○ 長距離を走る際はペース配分や目標タイムを確実にクリアしていくことなど、科学的な視点から走ることの重要性を伝える。
	11	整理運動・あいさつをする。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部を中心に教師主導で行い、体調不良等はないか確認する。

指導者は「皿形になるのが理想的」と説明していました。スタート直後はペースが上がり、後にやや下がって安定し、スパートでまたペースが上がると言うことです。グラフにすると右のようになります。



グラフ化して自己のペースを反省させ、体感したことと思考したことを結びつけています。今日の保健体育科に求められている重要なポイントが実践されていました。

3年間を通して長距離走を学習する際は、学習内容がマンネリ化しないよう配慮する必要があります。当校では、分析やグラフ化など科学的な取組みを取り入れることで生徒の意識や関心を高め、学習効果を上げようとしています。また、ペアの記録やそのグラフ化など、高学年でなくては実施が困難であることを踏まえ、発達段階に応じた指導内容と言えます。

今、体育・保健体育科で目指したい授業

-運動の真の楽しさを体感させるために実践したい3つのこと-

1 目的や行い方を意識した運動の実践

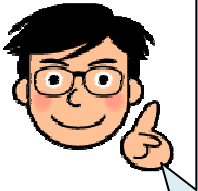
子どもたちは運動の目的や行い方を理解しているかな？



一つ一つの運動の目的や行い方を理解（意識）することで、子どもたちの主体的な学習が可能となり、運動に親しむ資質や能力の育成、体力の向上、健康の保持増進が図られていきます。子どもたちが、「やらされている」ではなく、「やってみよう」という意欲をもつことがとても重要です。

【配慮事項】

- 単元のはじめに到達目標を示したり、毎時のねらいを明確にしたりして授業を進めることが大切です。
- 副読本や学習カード等を活用して、ポイントをよりわかりやすくする配慮も有効です。



2 言語活動を活用した、楽しい学習の実践

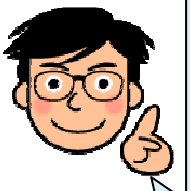
子どもたちにとって、本当に楽しい授業とはどんな授業？



今、体育・保健体育の授業では、単に技能や体力を身につけさせることを目指すのではなく、学習活動をとおして自ら考えて課題を克服したり、友達との協力や互いに高め合う体験をとおして技能や体力の向上を実感するといった、体育・保健体育科の真の楽しさに触れさせることが求められています。そのためには、言語活動を効果的に活用し、子どもたちの思考力・判断力に働きかける学習活動がポイントとなります。

【配慮事項】

- 授業者には、子どもたちが思考・判断した内容を確認する場を設定し、それらの活動を適切に評価することが求められます。思考力や判断力を運動の観察から評価することは難しいので、学習カード等を活用し、子どもたちの思考・判断した内容を確認することが必要となります。
- 主に技能を向上させるための「教え合い」と、作戦を立てる際の「話し合い」の活動とを区別して位置づけることが重要です。



3 目標に沿った指導・評価計画の作成と実践

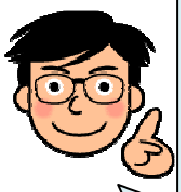
教科や単元の目標を達成させるうえで大切なことは？



教科や単元の目標を達成するには、指導者は子どもたちに、どのような力を身につけさせたいのか、そのためにどのような学習活動を行い、どのように評価していくのかを明確にしておく必要があります。子どもたちにとっても、自分ががんばったことを正しく評価されることで、学習意欲がいっそう高まります。

【配慮事項】

- 子どもたちの実態を把握し、指導・評価計画に反映させましょう。
- 求められる3つの力「基礎的・基本的な技能・知識」「思考力・判断力・表現力」「学習意欲」を、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の4観点で、バランスよく指導・評価できるよう計画に配置しましょう。
*体育・保健体育科においては、「表現力」は「技能」として評価します。



ジグソー学習を通して言語活動の充実を図った実践事例

学 年 : 第3学年

場 所 : 教 室

授 業 者 : JTEとALTのTT

研究主題 : 主体的な学びを培う指導はどうあればよいか

副 主 題 : ~学び合いを推進した授業の実践を通して~

1 単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 Lesson5 Houses and Lives

2 単元設定の理由

生徒は本課において初めて関係代名詞の用法を学ぶ。関係代名詞を用いた文章は文語的な表現であり、説明文などに使われることが多い。関係代名詞の用法を身につけることは、英語による理論的な説明を可能にする入り口であり、中学校で扱う言語材料では最終段階の表現方法である。

関係代名詞の用法を理解させる上で大切なのは、先行詞となる名詞を後置の文節で修飾するところにある。こういった表現方法は日本語にはないために、発話や作文で理解させるのは難しい。そこで、慣れるまでは関係代名詞を用いた英文を数多く読むことで後置修飾の感覚に慣れさせて、徐々に文を作ることへ移行させて理解を深めさせたい。

本時までに関係代名詞の主格と目的格のどちらの用法も導入している。そこで、本時は①that, who, whichが混在する英文を読ませることにより、関係代名詞であることを認識し、その文の意味を正しく捉えることができるように班活動の中で学習させたい。また、単に意味を考えるだけでなく、②関係代名詞が導く文節を正しく見つける方法を追究班や学習班で話し合わせることにし、関係代名詞への理解を深めさせるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 間違ふことを恐れず積極的に日本について説明している。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 日本についての説明をする文章を書くことができる。(表現の能力)
- (3) 図鑑・事典などの説明文を読んで、その内容を読み取ることができる。(理解の能力)
- (4) 関係代名詞に関する知識を身につけている。(言語や文化についての知識理解)

4 指導計画 (全11時間)

時	学習内容	評価計画				
		関心	表現	理解	知識	
1	Lesson5 GET part1 本文の内容理解と関係代名詞(主格) thatの用法理解	◎			○	・本文を読み、家に関する話題に興味を持ち内容を理解しようとしている。 ・関係代名詞(主格) thatの意味や用法を理解している。
2	Lesson5 GET part1 関係代名詞(主格) thatの運用		◎			・関係代名詞(主格) thatを用いて、自分のことについて表現している。
3	Lesson5 GET part2 関係代名詞(主格) which, whoの運用			○	◎	・関係代名詞(主格) which, whoの意味や用法を理解している。

4	Lesson5 GET part3 本文の内容理解と関係代名詞（目的格）that, whichの用法理解			○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞（目的格）が含まれる文を読んで内容を理解できる。 関係代名詞（目的格）that, whichの意味や用法を理解している。
5 本 時	Lesson5 GET 様々な関係代名詞を含む <u>総合活動</u>	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> 様々な関係代名詞が含まれる文を読んで内容を理解できる。 関係代名詞が含まれる文を読み、話の展開を積極的に予想しようとしている。
<p>表現や文法、発音など、単元を通してじっくり時間をかけて基礎基本の定着を図ったうえ、その蓄積した知識や表現を存分に表出できる時間となるように、学習活動に工夫を加えています。</p>						
6	Lesson5 USE Read 図鑑を読む	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> 世界の家の多様性を知り、住まいと生活文化について知ることができる。 図鑑・事典などの説明文を読んで、その内容を読み取ることができる。
7	Lesson5 USE Read 図鑑を読む	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> 世界の家の多様性を知り、住まいと生活文化について知ることができる。 図鑑・事典などの説明文を読んで、その内容を読み取ることができる。
8	Use Mini-project 日本紹介				◎	<ul style="list-style-type: none"> 日本について説明することができる。
9	まとめと復習 関係代名詞に関する表現と理解のまとめ	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の意味、用法を理解し、場面によって適切に訳すことができる 言語活動に積極的に取り組み、相手からの情報を得ようとする。
10	We're Talking⑤ バッグを持ちましょうか	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> Shall I ~?で「~しましょうか」と人に何かを申し出る会話をすることができる。 言語活動に積極的に取り組み、相手からの情報を得ようとする。
11	単元テスト	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の意味、用法を理解できている。

5 本時に関わる生徒の実態

生徒	英語の実態（家庭学習を含む）	既習事項の理解度	リーダー性
5	挙手して発表することも多く、まじめに授業に取り組んでいる。家庭学習もほぼ定着している。関係代名詞を十分な理解しているため、本時では、主体的な活動が期待できる。	A	○
6	力はあるものの、集中力がなく、授業中、上の空になることもある。基礎的な力は付いている。家庭学習はまずまず提出できている。関係代名詞については、理解が不十分なところが多いので、丁寧な支援が必要。	B	

生徒一人ひとりの実態把握はしっかりなされています（一部抜粋して提示しています）。あわせて、単元や本時の目標、指導内容との関わりで把握しているので、一層きめの細かい指導が可能となります。

6 研究主題と本時との関わり

(1) ジグソー学習

1) 本単元に関するジグソー学習の流れ

・ジグソー学習1（前時）

4人の班が2班、3人の班が2班の4班に分かれる。それぞれの班で分かっている情報（ストーリー*下記参照）を共有した後、わからないポイント4つ（下記小ストーリー①～④）の読み取りを班員で分担する。

<全体ストーリー>

Mr. BlueはMs. Greenのことが好きで、結婚したいと願っている。しかし2人は同じアパートの上の階と下の階に住んでいることぐらいしか接点がない。会話をするのはベランダ（Ms. Greenはベランダで猫を飼っている）越しに世間話をする程度である。そこでMr. Blueはある計画を実行する。計画はうまくいき、2人はつきあうこととなるのだが、果たしてMr. Blueはどうやったのだろうか。

<各小ストーリー>

①Mr. Blue's story

Mr. BlueはMs. Greenが自分の飼っている猫が成長しないことで悩んでいる事を知る。そこでMr. Blueはある計画を立てる。Mr. BlueはMs. Greenに魔法の呪文を唱えれば猫をだんだん大きくできると助言する。その次の日からMr. Blueは計画実行のため忙しくなっていく。

②Ms. Green's story

Ms. Greenは自分の飼っている猫が成長しないことで悩んでいた。すると上の階に住むMr. Blueから、魔法の呪文を唱えれば猫が大きくなる事を聞く。その呪文を唱えていると、毎日、徐々に猫が大きくなっていった。Mr. GreenはMr. Blueを見る目が変り好意を持つようになった。

③ペットショップ屋さんのお話

ある日、老人（Mr. Blue）が、10匹の猫を買っていった。その猫は大きさが510gから800gまでそれぞれ少しだけ大きさが異なっていた。10日後、その男性は幸せそうに10匹の猫を返しに来た。その男は「好きな女性と結婚できるようになった」と言って、すごく幸せそうにしていた。

④おもちゃ屋さんのお話

ある日、老人（Mr. Blue）がスーパーロングマジックハンドを買っていった。なんでこんなものを買うのかとたずねると、彼は「このマジックハンドが僕と僕が好きな人を結婚させてくれるんだ」と言っていた。

・ジグソー学習2（学習過程5 本時）

同じ分担の者同士が班を作り、協力して新しい情報を得るために活動をする。

・ジグソー学習3（学習過程6 本時）

各班で得た情報を最初の班に持ち帰り、それぞれの情報を集約し結論を導き出す。

活動場面の工夫により、生徒一人ひとりが、「自分がやらなければ班に情報を持ち帰ることが出来ない」という強い責任感を持って活動に取り組むことができます。

2) グループについて

学習班……生活班をベースに下位生徒とリーダー性のある子を均等に配置された班

追究班……選んだ文章が同じ生徒からなる班

3) 課題と手立て

課題：下位生徒、能力差への対応

手立て：追究班において自分だけの情報を各自に持たせるようにした。追究班において各班の活動にレベル差を与え、下位の班を集中的に教師がサポートした。

ストーリーによって英文を難易度をつけ、Readingの練習などの支援を行うなど、積極的に取り組めるように工夫しています。

(2) 本時に関わる家庭学習

- ・ワークブックLesson5のまとめ
- ・次時の予習

7 本時の目標

◎関係代名詞を含む文を読んで、その内容を理解できる。(理解)

段階	学習活動・内容	時間	形態	主な発問・指示・留意点 ◎評価
導入	1 Greetings	1	全体	・英語学習の雰囲気醸成させる。
	2 Warm up ①新出単語と既習事項の確認	6	全体	・既習事項を含んだ活動でスパイラル的に復習も進める。また英語の基礎・基本の定着を図る。
	3 本時の学習課題の把握 * Mr.Blue がどうして結婚できたか読み取ろう	1		
<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 活動の前に、既習事項の確認やルールの周知徹底、生徒の思考過程に沿った指示や説明によって、活動の質が大きく変わること留意することが大切です。 </div>				
展開	4 本時の活動の説明と分担（学習班） ①学習班に分かれ説明を聞く。 ②どの追究班に行くか考える。 ・ Mr Blue ・ Ms Green ・ ペット屋さん ・ おもちゃ屋さん	5	班	・ 追究班ごとに多少、活動の難易度が異なることを説明し、生徒が主体的に班を選べるようにする。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 活動の難易度にも配慮することによって、生徒一人ひとりが適切な達成感が得られるよう工夫しています。 </div>
	5 追究班でのリーディング活動（追究班） ①追究班に分かれ、班で力を合わせて必要な情報を読み取る。 ②学習班に戻って説明できるようにワークシートをまとめ、班で報告の練習をする。	15 7	班	・ 班で協力して活動することを強調し、グループ活動がうまくいくようにする。 ・ ワークシートの空欄を補充するだけでなく、その文を読めるように練習する。 ・ T1、T2が全体のバランスを見ながら、全体の机間巡視と下位生徒が多く集まる班の支援を行う。
	6 学習班での報告会（学習班） ①それぞれが収集した情報を発表する。 ②聞いている人は、ワークシートにメモを取っていく。 ③全体としてどのようなストーリーなのかを班で推測する。	10	班	◎関係代名詞が含まれる文を読んだり友達が話す文を聞いたりして、内容を理解できているか活動の様子から確認する。 A 基準 関係代名詞が含まれる文を読んだり友達が話す文を聞いたりして、内容を理解できる C への手立て 関係代名詞は後ろから前の名詞を説明していることを助言し、内容の理解を補助する。

				・できるようになった達成感を感じることができるよう、できた生徒を褒めながら進めていく
ま と め	7	まとめ	3	全 体
	8	家庭学習の指示	1	
	9	Greetings	1	

コミュニケーション活動に必要なのは、

- ①ターゲットセンテンスへの深い理解及び定着のための工夫と時間の確保
- ②生徒の習熟に合わせたTask設定（達成感）
- ③個から集団、集団から個に必ず帰着する活動の組み立て

などがあげられます。

本指導案のような活動を毎時間設定することは難しいですが、タイミングをとらえ、計画的に実施することが大切です。

今、外国語で目指したい授業

1 言語活動の充実

○小学校外国語活動との接続を！

「5年生の2学期あたりに、こんな表現使わなかったかな？」

生徒のモチベーションをくすぐる魔法の一言。生徒は、多くの英語表現を耳にしています。その実態を十分把握した上で、より積極的に、計画的にCE (Classroom English) を使っていきましょう。

○学ぶ意欲を引き出す言語活動の場面設定を！

A 「<There is /are~>をつかって英文を作ってみよう。」

B 「理想の自分だけの部屋とは、どんなものですか？その魅力的な自分だけの部屋を、<There is /are~>をつかって説明してみよう。」

A、Bともに、同じ英作文活動での指示ですが、積極的な活動が見られたのは……。ちょっとした工夫で生徒のやる気が違います。

2 Input活動(知識定着)とOutput活動(表現活動)の充実

○ 「文法説明は生徒が混乱するから・・・、なるべく触れないようにしています。」

そんな悩みを聞く機会があります。生徒は、それぞれの発達段階で日本語等との比較を通して、理論的な解釈や理解を求めはじめます。Input活動では、「なぜそうなるのかな？」と思わせることがカギ。生徒の言語習熟度の把握や思考過程に沿った発問や場面設定の工夫等を積極的に図っていきましょう。

○【活動あって、定着なし】からの脱却を！

「では、これらのカードを並べ替えて、グループ毎に英文を作ってください。その後、グループ毎に発表しましょう。」

よく見られる活動場面ですが、でもよく見ると・・・カードを並べ替えているのは、ごく一部の生徒だったりしませんか？Output活動では、生徒一人一人がじっくり取り組めるような学習形態や授業展開等に十分留意していきましょう。

3 生徒の主体的な学びの環境作りの充実

○ICTの活用を！

視聴覚教室が、さながらダンスホールのように、英語えいごEIGOにあふれている授業を見ました。
視覚、聴覚、・・・五感を刺激しながらの学習は楽しいものですね。

○辞書活用指導の推進！

「英語の授業で辞書を忘れるなんて、お弁当のお箸を忘れるようなもの」

昔、英語の先生に言われたのを覚えています。分からないところを自分で調べる、語学学習には必要な姿勢だと思います。

ソーシャルスキルトレーニング(SST)を取り入れた実践事例

特別支援学級 学級活動学習指導案

- 1, 題材名 「あいさつのしかた」(ソーシャルスキルトレーニング)
- 2, 題材の目標
- (1) 「あいさつのしかた」はどうすればよいか分かり、あいさつの仕方を身につけることができる。
 - (2) 「あいさつのしかた」を体験することで、心地よさを味わい、進んであいさつしようとする態度を養う。
- 3, 指導計画 (総時数 8 時間 本時 7 / 8)
- ソーシャルスキルトレーニングを授業に取り入れ、「気持ちのよいあいさつ」の練習を体験することで、日常生活の中でのあいさつの定着を図る。また、児童の実態に応じて指導内容の重点化を図ったり、数回に分けてりしながら柔軟に進める。

学 習 活 動	指 導 内 容 及 び 獲 得 目 標 と す る ス キ ル
上手な聴き方 (3 時間)	① 相手に体を向ける。 ② 相手を見る。 ③ 相づちをうつ。
あいさつの仕方 (1 時間)	① 相手に近づく。 ② 相手をきちんと見る。 ③ 聞こえる声で言う。 ④ 笑顔で言う。
返事の仕方 (1 時間)	① 名前を呼ばれたらすぐに返事をする。 ② 元気を声ではっきり言う。 ③ 笑顔で言う。
質問の仕方 (1 時間)	① 挨拶をする。 ② 質問をしても良いか相手の都合を確認する。 ③ 質問をする。 ④ お礼を言う。
仲間の入り方 (1 時間) ※本時 1 / 1	① 相手に近づく。 ② 相手をきちんと見る。 ③ 聞こえる声で言う。 ④ 笑顔で言う。 ⑤ 「いれて」などの言葉をかける。
あったか言葉・ チクチク言葉 (1 時間)	① 相手に近づく。 ② 相手をきちんと見る。 ③ 聞こえる声で言う。 ④ 笑顔で言う。 ⑤ あたたかい言葉が「相手の様子＋感情語」から成ることがわかる。

この題材で身につけさせたい力を明確にして、段階的に体験できるように学習活動が計画されています。
また、「繰り返し取り組む」ことができるように、指導計画が立てられています。

4, 本時の目標

- 上手なあいさつの仕方のポイントを理解することができる。
- ロールプレイやゲームを通して、あいさつの仕方を練習し、適切なあいさつができる。

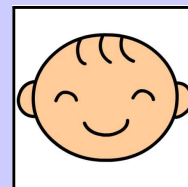
5, 学習過程

段階	学 習 活 動 ・ 内 容	時間 (分)	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導 入	<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>○ SSTの約束や自分のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>< SSTの約束 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかり見る。 ・ しっかり聞く。 ・ にっこりしてやる。 </div> <p>○ ウォーミングアップをする。</p>	5	<p>○ 3つの約束をカードに書いて提示し、意識化を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>言葉だけでなく、カードで示すことで「視覚的な手がかり」となっています。</p> </div> <p>○ 楽しい雰囲気をつくり、集中力を高めるために視覚や聴覚を使ったゲームをする。</p>
教 示	<p>2. 本時の学習内容を知る。</p> <p>< 本時のめあて ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>あいさつのしかたを知ろう</p> </div> <p>< あいさつのポイント ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手をきちんと見る。 ・ 元気な声ではっきりと言う。 ・ 笑顔で言う。 </div>	5	<p>○ 本時のめあてを提示し、あいさつするときのポイントを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ポイントを具体的に示すことで、やるべきことが分かり、学習活動に見通しがもてます。</p> </div>
モ デ リ ン グ	<p>3. モデリングを見て、上手なあいさつの仕方を知る。</p> <p>○ ポイントができていない不適切なモデルと適切なモデルを見て、どちらがいい気持ちになるかを考える。</p> <p>場面①「<u>相手をきちんと見る</u>」ができていない不適切なモデル</p> <p>場面②「<u>元気な声ではっきり</u>」ができていない不適切なモデル</p> <p>場面③「<u>笑顔</u>」ができていない不適切なモデル</p>	10	<p>○ 教師や児童がモデリングを行って見せる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>教師や児童同士がやりとりする場面があり、具体的なモデルが示されています。</p> </div> <p>○ それぞれの場面で児童の意見を聞く。</p> <p>○ 相手との距離感がつかみにくいのでちょうど良い距離を具体的に示す。(片手を上げてぶつからない距離)</p> <p>※ 上手なあいさつの仕方のポイントについて理解できたか。(観察)</p>
リ ハ ー サ ル	<p>4. ロールプレイングとゲームを行う。</p> <p>○ 3つのポイントをもとにロールプレイングを行う。</p> <p>○ 「あいさつじゃんけん」ゲームを行う。</p> <p>○ いろいろなあいさつの言葉について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>児童が実際に活動する場面があり、学習機会が多く設定されています。</p> </div>	20	<p>○ あいさつのロールプレイングをし、できているところを評価する。</p> <p>○ 「あいさつじゃんけん」ゲームでは、3つのポイントについて適宜手立てを示したり、できているところを称賛したりしながら行う。</p> <p>○ カードを使ってあいさつの言葉を感じる。</p>
振 返 り	<p>5. 学習のまとめをする。</p> <p>○ 振り返りカードの記入の仕方を知り、自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SSTの約束 ・ あいさつのポイント ・ 本時の感想 	5	<p>○ 本時の学習を振り返り、生活の中でも、実践する意欲をもたせる。</p> <p>※ あいさつの仕方を練習し、適切なあいさつができたか。(観察・振り返りカード)</p>

授業で学んだことを生活の中で生かせるように、実際の生活場面を意識して、学習内容が構成されている実践事例です。また、SSTを学校として教育課程に位置づけ取り組んでいます。

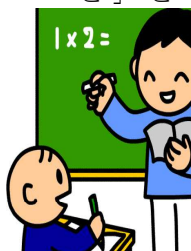
今、特別支援教育で目指したい授業

～ 特に大切にしてほしい3つのポイント！ ～



1 単元で身につけさせたい力を明確にする

- ◎ 事前に児童生徒がこれまで体験してきたことをしっかりと把握し、「できること」と「難しいこと」を整理することが大切です。



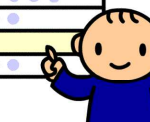
- 児童生徒が、「自信をもって取り組むこと」ができるように、これまでの学習や体験が生かせる目標及び単元計画を立てる。
- 「もう少し頑張ればできそうなこと」を目標として、単元計画を立てる。
- 単元で身につけさせたいことについては、「繰り返し取り組むこと」ができるように、単元計画を立てる。

2 学習活動に見通しをもたせる

- ◎ 児童生徒に学習活動の見通しをもたせることで、分かりやすい授業になり、主体的な学習活動が期待できます。

- 活動内容がイメージできるように、文字や絵・具体物など「視覚的な手がかり」を活用する。
- 本時の「ねらい」や「活動」を絞り、教える内容をシンプルにする。
- 教科の特性に応じて、授業の流れを「パターン化」したり、授業内容や取り組む順番を「視覚化」したりする。

	月	日	()
1	●	●	●
2	●	●	●
3	●	●	●
4	●	●	●
5	●	●	●



3 日々の授業の「授業改善」に努める

- ◎ 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の目標や手立て等を生かして、日々の授業づくりを進めていきましょう。

- 児童生徒が自ら活動する学習機会を多く設定する。
 - ・児童生徒が教師と一緒に教材や教具などの準備や後片付けをする場面を大事にする。
 - ・教師の説明をできるだけ簡略化し、児童生徒が行う実際の活動時間を多く確保する。
 - ・教師や友達同士が「やりとりする機会」を意図的に設定する。
 - ・自己選択、自己決定の場面を設定する。
- 授業で学んだことを生活の中で生かせるようにしていく。
 - ・実際に児童生徒が操作したり、活動したりする機会を多く取り入れる。
 - ・生活場面を意識して、学習内容を構成する。
- 児童生徒の興味・関心を生かした活動内容を取り入れていく。
 - ・児童生徒の興味や関心を大切に、それを授業に取り入れることで主体的に活動できるようにしていく。



大規模地震及び二次災害を想定した避難訓練と 全校集会による防災教育の例 (中学校)

大震災の発生後、実践的な避難訓練や効果的な安全教育の実施が強く求められています。各学校からは、避難訓練や安全教育のマンネリ化が課題であるとの声が聞かれます。本事例には、生徒が安全に関する意識を高め、主体的に安全確保に努める実践力をはぐくむことができるような工夫が見られます。特に二次災害の発生を想定した避難訓練の開催、全校生徒による防災教育の取組みなど充実した活動が行われています。

1. 日時 平成〇〇年10月〇〇日 13:35~15:00
2. 設定 : 昼休みの時間中、緊急地震速報により震度6強の地震発生の予報が入る。全校生徒と職員に校内放送で安全を確保するよう指示する。その後、学校防災マニュアルに従い、揺れがおさまった後、安全なルートを通り校庭に避難する(1次避難)。
また、地震により、学校の上流にある「大規模ダム決壊の恐れあり」との報告を受ける。本校校舎にも被害が及ぶ可能性があるため、丘の上にある小学校敷地内に避難する(2次避難)。

津波など二次災害の発生は必ずしも海岸だけではありません。当校ではダムの決壊を想定し、より最善を期した訓練が行われました。地域や季節によっては、雪崩や土砂災害などを想定した二次避難の訓練も考えられます。

3. 日程
- 13:00 給食終了・片づけ、休憩時間
 - 13:35 避難訓練開始
 - 13:43 2次避難開始
 - 13:50 2次避難完了→中学校多目的ホールへ移動
 - 14:05 反省会、講話(多目的ホール)
 - 15:10 学校防災マニュアル・避難訓練の評価(校長室)

避難訓練の評価として、避難に要した時間や行動の様子など、その多くが子どもたちの動きに着目されます。しかし、それ以外に、避難経路は最善であったのか、避難場所として本当にふさわしいのかなど、避難を誘導する立場からの評価が大変重要となります。当校はマニュアルの内容や教師の指示の在り方を見直し、評価結果から課題を見つけだして、より効果的な避難訓練となるよう努めています。

4. 事前指導など 避難訓練について、生徒へは事前実施日のみ伝え詳細は伝えない。なお、訓練開始とともに、放送で「避難経路に障害物があったときには安全な避難ルートを探すこと」を話す。

5. 当日の流れ

時間	生徒の動き	教職員の動き
13:00	・給食・片づけ終了後、通常の昼休み時間を過ごす。	・給食・片づけ終了後、通常の昼休み時間を過ごす。
13:15		・障害物の配置 長机→昇降口・職員玄関(担当A) ハードル→校庭など(5台程度)(担当B) ほうき・モップ→1Fに4本ほど(担当C) 体育館入口施錠→鍵閉めるのみ(担当D) 校舎巡視→(担当E)

決められた避難経路を速やかに避難する訓練と、状況に応じて生徒が主体的に判断し行動する訓練があります。当校は安全に配慮しつつ、状況に応じて適切に行動できるよう実施しています。

13:35	○避難訓練開始（雨天時は、役場庁舎に避難） ＜手順＞1. 地震速報の音源を放送する。 2. 非常放送を行う。（担当F） 「まもなく強い地震が来ます。まずは、身の安全を確保し次の指示を待ちなさい。」 3. 2分後、非常放送②（担当F） 「生徒・教職員は安全なルートを探し、校庭（雨天時は町役場庁舎）に避難しなさい。（2回）」 4. 生徒・教職員とも直ちに校庭に避難する。 避難完了後、人員確認 * 報告順序 学級委員→担任→教頭→校長（不明者設定）
13:42	5. 人員確認後、着席する。 6. 不明者を捜索する。
13:43	7. 確認後、地震によりダム決壊の恐れありとの連絡（担当Fから教頭への電話） 8. 隣接の小学校へ避難（避難経路は生徒たちに任せる。交通ルールを守って避難）
<p>多くの学校では一時避難で終了していることと思います。当校は二次災害を想定し二避難を指示しています。生徒が状況を理解し、冷静に判断し落ち着いて行動することができるよう計画された内容です。生徒の行動を想定しつつ、全教師が安全に配慮しながら生徒の活動を見守り支援しています。</p>	
13:50	9. 生徒・職員直ちに避難 完了後、人員確認 * 順序 学級委員→担任→教頭→校長 10. 全員の安全を確認後、本校多目的ホールへ移動
13:50 14:00	小学校より本校多目的ホールへ移動し全校集会に備える。
14:05	全校集会・講話 進行（教頭） 1. 開会の言葉（進行） 2. 校長先生のお話 3. 避難訓練についての話し合い（生徒発表も含む） ■ポイント ① 地震時に落下物対策は行うことができたか、また、どのようなことが重要か。 ② 避難時に、障害物などがあった際に、ルートを見つけることができたか。また、大切なことは何か。 ③ 2次避難ルートを適切に選ぶことはできたか。また、安全な避難ルートの条件は何か。 ④ 2次避難時に、本部がなかった時にどのように行動したか。また、どのように行動すればよかったか。
<p>避難訓練を行う際に、職員間で十分に内容を検討し、生徒自らが気づき、考えて行動するような内容を取り上げています。身につけさせたい力は何か、そのためにどのような訓練を実施するのか、反省で着目させたい点は何かなど、指導する教師のねらいや配慮が見られます。</p> <p>避難訓練を振り返る話し合いを縦割りのグループ構成としたことで、上級生の責任感がはぐくまれ、下級生に対する適切なアドバイスにもつながります。</p>	
15:00	■グループ分け 学年を縦割りに1グループ7～8名で編成 ■話し合いのテーマ グループごとに上記ポイント①～④のテーマについて割り振る ■発表 発表者を決定し発表を行う。 4. 講師の先生より講話（大学教授、気象台気象官） 5. お礼の言葉（生徒会長） 6. 諸連絡 7. 閉会の言葉（進行）
15:05 16:00	講師の先生退室後、校長室にて、講師、校長、教頭、担当で学校防災マニュアル・避難訓練の評価

当校では、子どもたちの安全に関する意識や実践力をより高めることを目的に、これまで実施または参加してきた防災学習、地域防災訓練、避難訓練などを振り返るよう学級活動を行いました。ここでは、3学年と1学年の学級活動を紹介します。

第3学年1組 学級会活動指導案

1、主題名 学級や学校における生活上の諸問題の解決
社会の一員としての自覚と責任

2、本時のねらい

非常災害が発生したときに、自らの命を守ったり、地域に貢献したりするためにはどうしたらよいか、防災教室の実践を通して考える。

3、指導過程

	学習活動・内容	形態	時間	指導上の留意点 ◆評価
導入	1 今年度、これまで体験してきた「防災教室」等を振り返り、そこで学んだことや気づいたことを発表する。 (1) 地域防災訓練 (2) 避難訓練 (3) 防災講話	一斉	10	○ 資料の提示や補足説明により、本時のテーマの意識化を図る。 ・防災訓練の写真を提示して、何をしている場面かを確認させる。 ・昨年まで実施してきた避難訓練との違いを確認させる。 ・過去に発生したこの地域の水害の話から、大切なことを確認させる。
展開	2 災害発生時の4つの場面を想定しどのように行動すべきか班で話し合う。 (1) T2（理科担当教師）から、地震の起こる仕組みや、我が国における災害発生の実態について話を聞く。 (2) 各班ごとに、与えられた次のような状況を想定し、どのように行動すべきか話し合う。 ■1班 2月の地震について ■2班 都市部で地震に遭った場合について ■3班 日常の備えについて ■4班 地震・洪水以外の災害について	一斉 班	5 15	○ 既習の知識を生かし、災害発生時の対応の在り方を考えさせる。 ○ 1年理科で学習した内容を振り返り、地震についての知識を想起させ話し合いに生かす。 ○ それぞれの状況について、どのような話し合うポイントをそれぞれ確認させる。 ・状況の判断する ・安全の確保する ・周囲への配慮など 理科の教師が T2 となり、地震発生のメカニズムを説明することで、既習した内容が生徒の思考や判断に生かされ、関心の高まりにもつながります。 修学旅行で東京を巡った際の様子を思い出し、旅行先、進学、就職等、都会で生活を送る際の安全確保について考えていました。普段の生活と異なる場所での災害を予想することは、生徒の思考を深める上で効果的だと思います。

	(3) 話し合った内容を模造紙に書き込み発表に活用する。			○ 1.2班にT1、3、4班にT2がついて、必要に応じて話し合いが深まるよう支援する。
	3 それぞれの班の発表を聞き、どのように対応すべきか意見を出し合う。 (1) 各班で出された内容を発表する。 (2) 各班の発表について質疑または意見や感想を発表する。	一斉	15	○ 模造紙を見ながら発表を聞かせる。 ○ 無理だと思うことや自分ならこうすると思ったことを自由に発言させる。 ○ 模造紙に書き込ませて、考えの広がりを視覚的にも確認させる。 ◆ 様々な場面を想定し、自己の命を守ることと、周囲に貢献するために、どのように行動すべきか考えることができたか。
まとめ	4 教師の説話を聞く。	一斉	5	○ 東日本大震災の例や教師の体験談を示し、今後も自分で考えて行動することや、日常的に防災意識を持つことを確認できるような話しに努める。

各班で考えた行動について、他の生徒の意見を出し合うことで、よりよい行動の仕方や多様な対応の仕方が発見されます。

第1学年1組 学級会活動指導案

1 主題名 社会の一員として生きる（自然災害に負けない）

2、本時のねらい

非常災害が発生したときに、自らの命を守ったり、地域に貢献したりするためにはどうしたらよいか、防災教室の実践を通して考える。

3 学習過程

段階	学習内容・活動	時間・形態	・指導上の留意点 ◇評価
気 付 く	1 今年度の取組みを振り返る ・地域防災訓練への参加 ・道徳・全校集会における東日本大震災の経験のお話 ・校内避難訓練 ・地域の災害に学ぶ（水害）	7 一斉	○ 今年度取り組んできたことを思い返させるようにポイントを補足する。 ・炊き出しや負傷者の手当ての補助 ・地震の被害について、写真から経験を聴く ・逃げ遅れた友達や二次避難について ・昨年の水害の経験を聴く

	<p>2 本時のねらいをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大きな地震など自然災害が発生したときに、“自分の命”を守り、“地域に貢献”していくためにはどのようなことが大切か考えよう。</p> </div>	<p>3 一斉</p>	<p>○ 板書し意識づけを行う。</p> <p>◇ 本時のねらいをつかめたか（挙手）</p>
<p>考 え る</p>	<p>3 教師の説明から話し合う視点を理解する。</p> <p>① 大きな地震から身を守るためにはどうしたらよいか。</p> <p>② 地域に貢献するためにはどうすればよいか。</p> <p>③ 大きな災害に備え、家庭で約束しておくべきことは何か。</p> <p>4 学習班で話し合い、担当を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの視点について話し合いを行うか、考えたいことを決める。 <p>5 追究班で話し合い考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの視点について、考えられることを挙げ、その中で大切なことを話し合いで精査する。 ・ 学習班で伝えることを整理する。 <p>6 学習班にもどって報告し、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 追究班で話し合った結果を互いに報告する。 ・ 新たな疑問点や意見があれば出し合う。 	<p>5 一斉</p> <p>5 グループ ①</p> <p>10 グループ ②</p> <p>10 グループ ①</p>	<p>○ プリントを配布し、話し合う視点3つを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震際の1次避難について ・ 災害の状況を想像する ・ 一番できていないことはどんなことか <p>○ 生徒が自主的に考えられるよう配慮する。</p> <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #ffff00; margin: 5px 0;"> <p>学習班で話し合い、さらに追求班で話し合うことで、多くの意見が出されるようになり、生徒の考えが深まります。</p> </div> <p>○ 自主的に決めるように話す。</p> <p>○ どんな小さなことでも考え、意見を出すように話す。記録は、すべてを書くのではなく、自分が大切だと思うものを書く。</p> <p>○ プリントの“伝え方シート”に記入する。</p> <p>○ 追究班で出された考え等に疑問や意見があったら積極的に書くように話す。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>7 学習班から疑問や意見を出し、それについて検討する。</p> <p>8 自然災害に負けないために、“自分の命”を守り、“地域に貢献”していくために、日頃からどのような心構えが大切か、自分の考えを書く。</p>	<p>5 一斉</p> <p>5 個別</p>	<p>○ 確認し意見があれば発表させる。</p> <p>○ 自分の言葉で考えさせる。時間があれば発表させる。</p>

児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせる場、それは何と言っても日々の授業です。授業の質を高めることは、「教育のプロ」として、私たち教師に課せられた使命であります。

学習指導案を作成しての授業実践は、「わかる・できる授業」への授業改善を図る良い機会となります。教科によって多少違いはあるかと思いますが、是非、下の指導案例を参考に学習指導案を作成し、授業研究等に役立てていただきたいと思います。

第〇学年 〇〇科 学習指導案

平成〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
場所〇〇〇〇 指導者〇〇〇〇

1 授業テーマ

2 単元(題材)名 ()

3 単元(題材)の目標

- (1) 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」などから、単元(題材)の学習を通して目指す子どもの姿を示す。(教科により、いくつか絞ったりまとめて表記したりすることもある。)

4 単元(題材)について

- (1) 児童観(生徒観) 「〇〇が苦手」のような一般的な姿でなく、授業テーマ、単元(題材)の目標との関わりでとらえる。その際、これまでの学習の様子(学習活動の経験)や諸検査や意識調査の結果などをもとに情意面も含めて客観的に分析する。

- (2) 教材観 単元(題材)の目標に掲げた内容を身に付けさせる上で、その教材のよさ(有用性)や指導事項の系統性を明確にする。

- (3) 指導観 児童(生徒)観や教材観を踏まえた上で、単元(題材)の目標を達成するための具体的な手立てとそれによって目指す児童生徒の姿を明記する。前段では単元(題材)全体について、後段では、本時の位置付け及び具体的な指導の工夫について述べると分かりやすくなる。

5 指導計画(総時数〇時間 本時〇/〇〇時)

- (1) 単元(題材)全体の指導計画について、学習内容、主な学習活動、ねらい、指導事項等を端的に表現し、本時の位置付けを明確にする。
- (5) ※ 評価規準表と関連付けて表記することも有効である。
※ 教科によって、表記する単元は、中単元の場合もある。

6 本時のねらい

～ について、 ～ することにより、 ～ することができる
(学習内容) (学習活動や手立て) (目指す姿)

※ 本時の学習内容に対して、学習活動や指導の手立てを明確にするとともに、本時で目指す子どもの姿を観点別に具体的に示す。

※ 1単位時間でねらう観点は、1～2観点が望ましい。

※ 単元(題材)の目標や授業テーマとの関連も踏まえる。

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ●評価
課題把握	1 前時の復習、既習事項の確認をする。 2 …し、本時の学習課題をとらえる。 学習課題は、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○なぜ～なのか？ ○～なのは、どうしてか？ ○「Aか？Bか？」等 </div>	5分	○効果的な資料の提示等、具体的な手立てを講じて、本時の課題をとらえさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○「～を調べよう」「～について考えよう」の課題は、内容・方法の見通しをもちにくいだけでなく、解決意欲が高まりにくい。 ○本時のねらいと直結した学習課題であること。 </div>
課題解決	3 課題に対する見通し(予想)をもつ。 ○…だから…ではないかと思う。 ○…から見て…Bだと思う。等 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○予想される考え等を記述する。 </div> 4 課題について…して追究する(調べる、話し合う等) ○…の資料を活用して、…について調べる。 ○グループ(ペア)で…について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○学習内容を明記する。 (学ばせたいこと、気づかせたい視点など) </div> 5 …について…したことを…する。 ○…について、互いの考えを発表し合う。 ○話し合ったことをもとに…する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○学習内容を明記する。 </div> 6 教科によっては、適用問題等を解く活動を行う。	30分(35分)	○教えるべきことと主体的に学習させることを明確にし、課題解決に向けた手順を確認する。 ○課題に対する自分なりの考えを書かせることで、課題解決に向けた意欲の高揚を図る。 ○個に考えさせる時間を確保し、机間指導等において、実態把握と個に応じた支援を行う。 ○児童生徒が主体的に学習に取り組み、課題に対し、自力で追究する場と時間を十分確保する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○主体的な学習を展開させる際の留意点 ・教師の説明は端的に短時間で行う。 ・学習形態(個・ペア・グループ・全体)は、その目的を明確にした上で、取り入れる。 ・「話し合いマニュアル等」の活用を図る。 ・教師自身が、学習内容・具体的な手立て・目指す姿を明確にする。 ・一人一人の学習活動をよく観察し、個に応じた支援(認め、ほめる)の充実を図る。 </div> ●本時のねらいに直結した学習内容・学習活動を中心に、方法も明記して具体的に評価する。 ○本時のねらいに対して、不十分な子どもに対する手立てと上位の子どもをさらに伸ばす手立てをあらかじめ準備しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○「本時のねらい」と「学習課題」、「中心となる学習活動・内容」「評価」「まとめ」が一連の流れとして位置付ける。 (指導と評価の一体化) </div>
まとめ	7 本時の学習について振り返り、自分なりにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○本時の学習を踏まえて、学習課題に対する自分の考えをまとめる。 </div> 8 次時の学習について話し合う。 ○予習課題を確認する。	10分	○まとめをするのは、児童生徒自身である。 内容のまとめに加えて、初めの考えがどう変わったか、変わらなかったか、それはなぜかなど学習方法を振り返ることが大切である。 ○本時の学習内容について振り返る際は、キーワードとなる用語や語句を確認し、本時の学習課題に直結する「まとめ」を自分の言葉で記述させる。(児童生徒の発表内容を教師がまとめることはある) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ○何が分かって何が分からなかったかを子ども自身が明確に理解することが大切である。 </div> ○子どもの疑問に答えたり、次時につながる課題を提示するなどして、次時の学習への意欲を喚起する。

作成にあたってご協力いただいた小・中学校

会津若松市立鶴城小学校

会津若松市立謹教小学校

会津若松市立河東学園小学校

喜多方市立第一小学校

湯川村立勝常小学校

会津美里町立宮川小学校

会津若松市立一箕中学校

磐梯町立磐梯中学校

柳津町立西山中学校

三島町立三島中学校

金山町立金山中学校

発行者

福島県教育庁会津教育事務所

(平成25年3月 発行)